

琉球大学学術リポジトリ

鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム（下）

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2007-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩俣, 繁久, かりまた, しげひさ, Karimata, Shigehisa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2292

鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム (下)

かりまたしげひさ

前号目次

1. 諸鈍方言のリズム＝アクセント的構造
2. 諸鈍方言のフォネーム
 2. 1. 母音フォネーム
 2. 1. 1. 前舌狭母音 / i // i: /
 2. 1. 2. 中舌狭母音 / ĩ // ĩ: /
 2. 1. 3. 奥舌狭母音 / u // u: /
 2. 1. 4. 前舌半広母音 / e // e: /
 2. 1. 5. 中舌半広母音 / ë // ë: /
 2. 1. 6. 奥舌半広母音 / o // o: /
 2. 1. 7. 広母音 / a // a: /

今号目次

2. 2. 子音フォネーム
 2. 2. 1. 調音の方法
 2. 2. 2. 調音の位置
 2. 2. 3. 声門の状態
 2. 2. 4. 閉音節の生成と音節末の子音
 2. 2. 5. 口蓋音化と唇音化
 2. 2. 5. 1. 口蓋音化した子音フォネーム
 2. 2. 5. 2. 唇音化した子音フォネーム
 2. 3. 1. 両唇破裂音 / p // b /
 2. 3. 2. 舌尖破裂音 / t' // t' // d /
 2. 3. 3. 舌尖破裂音 / t'ʃ // t'ʃ // dʒ /
 2. 3. 4. 奥舌破裂音 / k' // k' // g /
 2. 3. 5. 声門音 / ?w // h / と半母音
 2. 3. 6. 舌尖摩擦音 / s // ʃ /
 2. 3. 7. 鼻音 / m // n /
 2. 3. 8. 流音 / r /

2. 2. 子音フォネーム

上村幸雄1978の分類方法にしたがって、すなわち、(1)調音の方法、(2)調音の位置(調音点)、(3)声門の状態((a)無声音/有声音、(b)喉頭化/非喉頭化)、(4)口蓋音化・唇音化の有無に四つの観点から諸鈍方言の子音フォネームを分類すると、表1のようなになる。各欄の左側に口蓋音化や唇音化を特徴としない子音フォネームを、まんなかに口蓋音化を特徴とする子音フォネームを、右側に唇音化を特徴とする子音フォネームを記してある。

(表1)

			両唇	舌先	前舌	奥舌	声門
破裂音	無声	喉頭	p pj	t'		k' k'j k'w	ʔ
		非喉		t		k' k'j k'w	
	有声	非喉	b bj	d		g gj gw	
破擦音	無声	喉頭		tʃ			
		非喉		tʃ			
	有声	非喉		dʒ			
摩擦音	無声		hw	s ʃ	hj		h
鼻音	有声	非喉	m mj	n nj			
流音	有声	非喉		r rj			
半母音	有声	喉頭		ʔw		ʔj	
		非喉		w		j	

2. 2. 1. 調音の方法

諸鈍方言の子音フォネームは、調音の方法によって破裂音、破擦音、摩擦音、鼻音、流音、半母音にわかれる。破裂音、破擦音、摩擦音は「さまたげ音(噪音 obstruents)」で、鼻音、流音、半母音は「ひびき音(鳴音 sonants)」

である。さまたげ音は声道のどこかの部分で呼気流をさまたげ、そのさまたげによってノイズを生じさせるものである。ひびき音は声道のどこかの部分で特殊な声の共振による効果を生じさせるものである。

調音の方法は標準語の子音フォネームと基本的にはおなじだが、声門破裂音 ʔ を有することが諸鈍方言の子音フォネームの特徴である。

2. 2. 2. 調音の位置

諸鈍方言の子音フォネームは、調音の位置によって両唇音、舌先音、前舌音、奥舌音、声門音にわかれる。この分類は「音声器官のどの部分が調音者として積極的な役割を演ずるか」によるものであるが、積極的に動くことはできないが、可変的な調音者が接している部分として、歯、歯ぐき、うわあご（硬口蓋）、奥うわあご（軟口蓋）などがあり、これのどの部分と調音者が接するかも重要である。これまでの観察から、調音の位置も標準語にくらべて大きな違いはないようである。標準語のばあいを参考にしながら諸鈍方言における子音の調音の位置についてみるとつぎのようになる。

- (1) 両唇音の p, pj, b, bj, m, mj は上下の唇で調音される。
- (2) 舌先音のうち、 t', t', d, n, nj は舌べり（舌面の先端の部分）と上の歯ぐきの前歯よりの部分から前歯の裏にかけての部分とで調音され、 r, rj は舌先と歯ぐきのつきだした部分とで調音される。また、 s は舌べりと歯ぐきとのあいだで調音される。 ʃ は前舌面のもちあがりによって、 s よりも調音の位置がうしろにずれる。 $t'\text{ʃ}, t'\text{ʃ}, d\text{ʃ}$ も ʃ と同様である。
- (3) 前舌音の j と ʔj は前舌面と上あご（硬口蓋）のあいだでつくられる。 hj も同様であるが、標準語のそれにくらべると、狭めがわずかにひろいようである。
- (4) 奥舌音の k', k', g は奥舌と奥うわあご（軟口蓋）とのあいだで閉鎖をつくるが、 $k'j, k'j, gj$ はそれよりもやや前よりのようである。
- (5) 声門音の h は開放された声門のあいだをとおるときにでる摩擦音である。標準語のばあい、 hw は上下の唇のあいだの狭めによってつくられる両唇摩擦音 $[\text{ɸ}]$ であるが、諸鈍方言の hw は、標準語にくらべて上下のくち

びるでの狭めがややひろい。hj も標準語の hj [ç] に比べるといくぶんひろい。また、諸鈍方言の hw, hj の呼気は標準語のそれにくらべるといくぶん弱いようである。中舌母音 i と結合するときの h は、[x] にちかくなるようである。

声門破裂音 ? は声門での閉鎖とそれにつづく急激な開放によってつくられる。

2. 2. 3. 声門の状態

諸鈍方言の子音フォネームも、標準語の子音フォネームと同様に声門での声(声帯の振動)の有無によって無声子音と有声子音にわかれる。さまたげ音は無声子音と有声子音にわかれるが、ひびき音はすべて有声子音である。諸鈍方言の場合、そのほかに声帯の緊張と閉鎖の有無によって喉頭化した子音フォネームと喉頭化しない子音フォネームとにわかれる。

喉頭化した子音フォネームは、子音の持続において声門が閉じられ、喉頭全体がもちあがり、くちむろでの調音と同時に、あるいはごくわずかに遅れて喉頭の閉鎖が開放される。喉頭の閉鎖によって肺から口むろへの呼気が妨げられるため、喉頭化しない子音フォネームに比べると、口むろでの気圧が高くなく、呼気の流出が少ない。破裂音や破擦音が喉頭化したものを単に無気音ということもある。実際にこの音を発するとき、細く破った紙を口もとにもっていても、大きくゆれることはない。

この喉頭化／非喉頭化の対立は北琉球諸方言の多くに共通にみられる特徴である。諸鈍方言のばあい、さまたげ音のうち破裂音と破擦音に有声音と無声音の対立があり、ひびき音は有声音のみで、有声／無声の対立がない。さまたげ音における喉頭／非喉頭の対立は無声子音にみられ、ひびき音における喉頭化／非喉頭化の対立は有声子音にみられる。(注1)

諸鈍方言の喉頭化した子音フォネームの系列と喉頭化していない子音フォネームの系列はつぎの表のような対立をしめしている。上の列が喉頭化した子音フォネームの系列である。まんなかの列と下の列が喉頭化していない子音フォネームの系列であるが、まんなかの列は無声子音で、下の列が有声子音で

ある。喉頭化した子音フォネームには有声子音と無声子音がある。

(表 2)

ʔ	ʔw	ʔj	k'	t'	k'w	k'j	t'ʃ	p
h	hw	hj	k'	t'	k'w	k'j	t'ʃ	—
—	w	j	g	d	gw	gj	dʒ	b

[k':k':g] [t':t':d] [k'w:k'w:gw] [k'j:k'j:gj] [t'ʃ:t'ʃ:dʒ] の対立は調音の位置、調音の方法が同じで、声門の状態のちがいのみの対立であるが、[ʔ:h] [ʔw:hw:w] [ʔj:hj:j] はかならずしも調音の方法がおなじではない。ʔは声門破裂音（喉頭破裂音ともいう）であり、hは声門摩擦音である。両者は厳密な意味での有声・無声の対立物を欠いている。また、ʔwとʔjは喉頭化した半母音で、wとjが喉頭化しない半母音で、hwとhjは摩擦音である。

摩擦音hは、ふつうの呼吸のときよりわずかにせまく開放された声門によってつくられるが、このとき声道はすでに後続する母音ごとにちがった形をとっている。これに対して声門破裂音ʔは、母音の発音に際しておこる声門の閉鎖とそれにつづく急な開放によってつくられる破裂音であって、そのときの声道の形は後続する母音の形をとっている。両者は調音の方法を異にするが、それぞれが対立物を欠き、おぎないあっているといえる。hjとjとʔj, hwとwとʔwについても同様である。

両唇を調音点とする子音フォネームの系列には喉頭化した無声の破裂音 p [p'] と喉頭化しない有声の破裂音 b があるが、喉頭化しない無声の破裂音 [p'] はフォネームとしては存在しない。喉頭化した無声の破裂音 p [p'] は擬声擬態語や外来語、その他の特別な単語や活用形においてのみあらわれるようである。

[p'i: ʔ p'i:] ひよこの鳴き声

[p'i: ʔ p'i:] 貧乏なさま

[p'om ʔ p'uj] 水に物の落ちるさま（深い）

[p'am ʔ p'an] 水に物の落ちるさま（浅い）

[^hp'an] パン、 [^hp'en] ペン

摩擦音 s, ʃ、鼻音 m, n, mj, nj、流音 r, rj は喉頭化しないフォネームの系列で、有声子音である。

喉頭化した子音フォネームの系列と喉頭化していない子音フォネームの系列の対立の語例をしめせばつぎのようになる。

^h k'in	着物
^h k'in	蹴爪
t'i ^h mī:	爪
^h t'i:	手
^h ?ju:	魚
^h ju:	湯
^h ?wa:	豚
wa ^h t'a:	綿

また、喉頭化した子音フォネームと喉頭化しない子音フォネームとは語頭ほど明確ではないが、語中でも対立し、つぎのような最小対立の例がみられる。

?i ^h k'i:	息	(注2)
?i ^h k'i:	池	

喉頭化したフォネームはつぎのようなばあいにもみられる。

① 無声の破裂音、破擦音がせま母音 i, u と結合した音節に由来するばあい。

*ki >	k'i ^h nju:	昨日	(注3)
	k'i ^h mo:	肝	
	?i ^h k'i:	息	
	t'i ^h k'i:	月	
*ku >	k'u ^h mo:	雲	
	^h k'up	首	
	?a ^h k'up	あくび	
*tʃi >	^h tʃi:	血	
	?i ^h tʃi:	市	
*tsu >	t'i ^h mī:	爪	

t'i'k'i: 月

ただし、*ki, *ku, *tʃi, *tsu に対応する音節でも、その音節の母音が無声化するとき、先行する子音は喉頭化しない子音フォネームであられる。

[k'i] [k'i'ʃir] 煙管、 [k'i't'a:] 北、
[k'u] [k'u'k'i:] 茎、 [k'u'sa:] 草、 [k'u'su:] 糞、 [k'u'ʃi:] 櫛、
[t'ʃu] [t'ʃu't'u:] 一年

- ② 語頭の音節のせま母音が無声化して、さらにその音節が脱落したばあい、つぎの音節の子音が喉頭化して、語頭にあらわれる。

ˆt'at	二つ
ˆt'ar	二人
ˆt'it	一つ
ˆt'ʃur	一人
ˆt'ʃu:	人

- ③ 先行する音節のせま母音が無声化したばあい、つぎの音節の子音が喉頭化する。(②のばあいもこの過程を経たものとおもわれる。語頭の無声化した母音を含む音節でたくさんの呼気を使用されるため、呼気を制御するために喉頭の筋肉がはたらいておこったのではないかと予想される。)(注4)

h'i'k'jos	挽き臼
t'ʃu'k'a:	薬罐
s'i't'a:	砂糖
hy't'on	布団

- ④ 先行する音節が閉音節で、その音節末の子音と、それに後続する子音とが同じ音価のばあい、後続する子音が咽頭化する。

mip ʌ p'o	めくら
ˆt'ik ʌ k'o	こぶし
ˆsik ʌ k'wa	西瓜
mat ʌ t'ap	蛇の一種

2. 2. 4. 閉音節の生成と音節末の子音

日本語の標準語、および多くの方言において、子音フォネームは音節内での位置、機能にしたがって音節をひらく子音フォネームと音節をとじる子音フォネームとに分類される。琉球列島の多くの方言においても同様である。このばあい、音節を閉じる子音フォネームは、もっぱらCVC構造の閉音節の末尾にくる子音フォネームで、つまる音（促音）とはねる音（撥音）とよばれるものである。つまる音はさまざま音で、はねる音は鼻音であるが、それぞれの実際の音価の違いは問題にされず、後続する子音によってその音価が決定される。これは日本語に特徴的にみられるものである。

しかし、諸鈍方言にも次の語例にみられるように、CVC構造の音節末にくる子音があるが、標準語とは違ってその音価は後続の子音によって決定されない。

˘ʔitʃ k'a 五日 k'up ʔtʃam 縛った sak ʔra 桜

また、語末にも自由にあらわれ、音節をひらく位置にあらわれる子音と同様にその音価のちがいが意味の弁別に重要な役割をになっている。

˘muʃ 虫 ˘mit 水 ˘k'up 首
˘ʃum する ˘mitʃ 道 ˘k'uk 釘
˘mum 糲 ˘mun 物 ˘k'utʃ 口

つまり、諸鈍方言の子音フォネームは音節をひらく位置にも、音節をとじる位置にも自由にくることができるのである。これらの事実から諸鈍方言の音節末にあらわれる子音を標準語などと同様に「はねる音」「つまる音」とみなすことはできないだろう。諸鈍方言の子音フォネームには音節をひらく子音フォネームと音節をとじる子音フォネームという音節内での位置や機能にしたがった分類をあえておこなう必要はない。

母音の項でものべたように、諸鈍方言の閉音節構造をもつ単語は母音が無声化したときのみ生成されるのではない。そのことは無声子音 *k, *tʃ, *ts の後の狭母音 i, u だけが消失するのではなく、有声子音 *g, *dʒ, *b, *m, *n, *r の後の狭母音が消失していることから、容易に推測される。この弱化は、あとでのべるように、prosodic な条件と phonematic な条件との相互作用によっておきるのである。

狭母音 *i, *u の弱化による閉音節の発生、成節的子音の生成という現象は、南琉球方言のなかの宮古諸島方言にも顕著にみられるのだが、宮古諸島方言の閉音節は、摩擦音 s, f, v, 鼻音 m, n などの子音に限定されていて、破裂音や破擦音が閉音節をつくることはない。また、宮古諸島方言の母音の弱化は語頭の音節でもおきていて、/CCV/ という音節構造を発生させている。諸鈍方言をはじめとする奄美大島南方方言の母音の弱化／閉音節の生成と、宮古諸島方言の母音の弱化／閉音節・成節的子音の生成とはおおきくことなるものである。

音節をとじる位置にくる破裂音や破擦音には、語頭にみられる喉頭化／非喉頭化の対立がみられず、喉頭化／非喉頭化の対立が中和される。また、音節末尾での中和の現象は喉頭化／非喉頭化の対立だけでなく、破裂音と破擦音のばあい、有声／無声の対立も中和される。(注5)

(1) さまたげ音のばあい (表3)

ki	ku	bi	bu	ʃi	su	tʃi	tsu
gi	gu					dʒi	dzu
k		p		ʃ	s	tʃ	t

(2) ひびき音のばあい (表4)

ni	nu	mi	mu	ri	ru
n		m		r	

有声子音に起源をもつ例

① 有声の破裂音

- ʔok 扇
- ʔk'up 首

② 有声の破擦音

- ʔgutʃ rja 鯨
- ʔk'otʃ 麴

˘mīt 水

③鼻音

˘mum 糊

˘k'am 紙

˘ʔin 犬

④流音

˘t'ur 鳥

˘hir 昼

無声子音に起源をもつ例

①無声の破裂音

˘juk 雪

˘sik 鋤

②無声の破擦音

˘k'utʃ 口

˘t'at 二つ

③無声の摩擦音

˘haʃ 橋

˘huʃ 星

ʃi˘was 師走

以上の語例のうち、有声音に起源をもつものは、「～も[-m]」という係助詞をともなったとき、[k] ~ [g]、[p] ~ [b]、[tʃ] ~ [dʒ]、[t] ~ [d] という無声子音と有声音との形態音韻論的交替をし、無声音に起源をもつものは、[k] ~ [k']、[tʃ] ~ [t'ʃ]、[t] ~ [t'] という喉頭化音との形態音韻論的交替をして、閉音節化する以前のふるい形であられる。このとき、子音が元の形であられるだけでなく、母音も復活してあられる。(あるいは、もとのまま保存されているというべきか。)

˘ʔok → ʔo:˘gim 扇も

˘juk → ju˘k'im 雪も

˘hwak → hwa˘k'um 箱も

ˆk'up	→	k'uˆbim	首も
ˆk'otʃ	→	k'o: ʔ dʒim	越も
ˆk'utʃ	→	k'uˆtʃim	口も
ˆmīt	→	mīˆdīm	水も
ˆt'īt	→	t'i: ʔ t'īm	一つも
ˆhuʃ	→	huˆʃim	星も
ˆt'ur	→	t'uˆrim	鳥も
ˆhir	→	hiˆrum	昼も
ˆʔin	→	ʔiˆnum	犬も
ˆmum	→	muˆmim	初も

音節を閉じる位置にくる子音フォネームが単語の途中にあり、その子音の後に有声音がつづくようなばあい、後の有声音の同化作用（逆行同化 *reprogrress assimiration*）をうけて有声音の破裂音のバリエントがあらわれることがある。（注6）

[ˆhik ʔ ru ~ ˆhig ʔ ru]	垢
[ˆʔap ʔ ra ~ ˆʔab ʔ ra]	油
[sak ʔ ra ~ sag ʔ ra]	ツツジの一種（桜に対応）

閉音節構造の音節は、単語のリズム＝アクセント的構造とフォネーム的構造の両方の条件の相互作用によってできたものである。閉音節の単語は、「国語アクセント類別対応表」の2拍名詞のうち、1、2類の単語が圧倒的におおく、しかも、単語の末尾の母音が i, u であったものであり、3、4、5類にはごくかぎられた単語でしか閉音節構造がみられない。

諸鈍方言の1、2類の単語は、他のおおくの琉球列島諸方言、とりわけ、北琉球方言におけるばあいと同様に *acute accent* をもつ。諸鈍方言の *acute accent* は下降調で、筋肉の弛緩とともにピッチが下降し、呼気流量も減少する。そして、i, u は他の母音にくらべると、声道の音響管としての効率のわるさから相対的におおきい呼気流量によって声帯をつよく振動させるにもかかわらず、相対的にきこえのちいさい、つよさのつよくない音声である。単語アクセントの型、母音 i, u の空気力学的な性質、そして、この母音が語末にくる

というフォネーム構造のみつつの条件があいまって閉音節構造の単語を生じさせたのであろう。2拍以上の名詞についても同様な条件をかんがえるべきであるが、そこにはさらに、諸鈍方言が強音節と弱音節を交互にくみあわせるという単語のリズム＝アクセントの構造が重要な条件となる。

① 1、2類の単語で語末が *i, *u のばあい。

˘ʔip 海老 (2-1)

˘mīt 水 (2-1)

˘ʔiʃ 石 (2-2)

˘nat 夏 (2-2)

② 1、2類の単語で語末が *a, *e, *o のばあい。

ni˘wa: 庭 (2-1)

k˘u˘ra: 鞍 (2-2)

hi˘gi: 髭 (2-1)

mu˘nī: 胸 (2-2)

nu˘no: 布 (2-1)

ʔu˘t˘u: 音 (2-2)

③ 3、4、5類のばあいは、末尾の母音が i, u でも閉音節にならない。

mi˘mi: 耳 (2-3)

ha˘ri: 針 (2-4)

ʔa˘k˘i: 秋 (2-5)

t˘i˘k˘i: 月 (2-3)

ʔu˘sī: 白 (2-4)

ha˘ru: 春 (2-5)

[例外] つぎの語は母音 a, o に対応する母音が脱落して、閉音節をつくっている。

˘hwak 箱 (2-1)

˘k˘at˘na 刀

t˘a˘bak たばこ

[˘ʔir˘k˘i] 鱗、[t˘ir˘gjo] 井戸などの音節をとじる子音 r は、先行する

母音 i と後続する口蓋音化した子音とにはさまれているために、それ自身も口蓋音化していて、[ʔiriɾk'i] [t'iriɾgjo] のように聞こえる。しかし、諸鈍方言には○○○という短い音節だけからなる単語は存在しないという音節＝リズム構造上の理由によって、これを [ri] とみなすことはできない。

また、音節を閉じる位置にくる子音フォネームが単語の末尾にきて、外破するとき、その子音が口蓋音化しない子音のばあい、外破の気音とともに [i̥] のような音色がきこえ、口蓋音化した子音のばあいは、[i̥] のような音色がきこえてくる。

ʔk'up^(p) (首)、ʔhjak^(p) (百)
ʔzi̥^(p) (石)、ʔk'ut̥^(p) (口)、

当初、この外破するという音声現象を大切に、それを記述するため、[ʔk'up^(p)] [ʔk'ut̥^(p)] のように無声化した母音を括弧に入れ、子音の右肩に小さく添え書きした。だが、単語のリズム＝アクセント的構造からみると、外破の際に生ずる気音が無声化した母音 [i̥] [i̥] とみなすことはできない。(注7)

仮にこれを無声化した母音とみなすと、上記の単語は○○、あるいは○○○という短い音節だけからなる単語ということになる。しかし、これらの単語は以下にみるようになが母音を含む開音節の長い音節の単語とおなじ、ながい1音節の単語である。

○	○○
ʔk'up (首)	k'upɾnu (首が)
ʔk'i: (毛)	k'i:ɾnu (毛が)
ʔhjak (一つ)	ʔhjakɾnu (百が)
ʔja: (家)	ʔja:ɾnu (家が)

音節末にくる子音が外破して軽い気音がきこえるのは、諸鈍方言の音節末の子音が喉頭化していないためであろう。(注8)

2. 2. 5. 子音の口蓋音化と唇音化

2. 2. 5. 1. 口蓋音化した子音フォネーム

諸鈍方言の子音フォネームは、標準語の子音フォネームとおなじように口蓋音化を特徴とする子音フォネームの系列と口蓋音化を特徴としない（同時に唇音化も特徴としない子音フォネーム）の系列の対立がある（注9）。諸鈍方言のすべての子音フォネームはこのいずれかに属することになり、パラレルな対立をしめしている。

k'j k'j gj pj bj t'ʃ t'ʃ dʒ nj mj rj ʃ hj ʒj j

k' k' g p b t' t' d n m r s h ? -

母音の項でものべたように、口蓋音化を特徴とする子音フォネームは中舌母音 *ë, i* と結合しないし、口蓋音化を特徴としない子音フォネームは、前舌母音 *e, i* と結合しない。それぞれが対立物を欠いている。

bi	-	bje	-	bja	bjo	bju
-	bī	-	bē	ba	bo	bu

しかし、両者は以下のように相互におぎないあっているものとみなすことにする。

(1)

bi	bje	bja	bjo	bju
bī	bē	ba	bo	bu

 (注10)

(2)

ʃi	ʃe	ʃa	ʃo	ʃu
sī	sē	sa	so	su

上の *b:bj, s:ʃ* のようなパラレルな対立を示すもののほかに、以下のような、不完全な対応関係のものも見られる。（注11）

(3)

gi	-	gja	gjo	gju
gī	gē	ga	go	gu

(4)

ʒi	ʒje	ʒja	ʒjo	ʒju
-	-	ʒa	ʒo	ʒu

(4)の /ʒje/ は、[ʒje] ~ [ʒe] のような音声的なバリエントがみられるが、母音の音色、舌の硬口蓋へのもちあがりの程度などから、これを拗音節に属するものとする。

(3)(4)のようにどちらか一方に欠けた音節をふくむものには h:hj, k':k'j, k':k'j, n:nj, m:mj, r:rj, p:pj がある。

(5) $\left(\begin{array}{ccccc} t'ʃi & t'ʃe & t'ʃa & t'ʃo & t'ʃu \\ t'ɪ & t'ë & t'a & t'o & t'u \end{array} \right)$

(6) $\left(\begin{array}{ccccc} t'ʃi & t'ʃe & t'ʃa & t'ʃo & t'ʃu \\ t'ɪ & t'ë & t'a & t'o & t'u \end{array} \right)$

(7) $\left(\begin{array}{ccccc} dʒi & dʒe & dʒa & dʒo & dʒu \\ dī & dë & da & do & du \end{array} \right)$

以上の(5)(6)(7)は、口蓋音化しない子音フォネームの系列が破裂音で、口蓋音化した子音フォネームの系列が破擦音である。それぞれに対立する口蓋音化した舌尖破裂音や口蓋音化しない舌尖破擦音がなく、お互いがおぎないあっている。この相互移行の関係は以下の例にみられるような先行する前舌狭母音 i の順行同化作用による口蓋音化現象に確認することができる。(この変化の途中に *tj *dj があつたことが容易に推定できる。)

*ito > ʒiʰt'ʃu: (糸)

*hidari > hiʰdʒar (左)

参考 *mino > miʰnjo: (蓑)

口蓋音化した子音フォネームは次のようなばあいにあられわる。

(1)標準語の拗音節に対応してあられる。

ʰbjok 病気 ʰk'jo:ɽdë 兄弟

ʰmjotʃ 名字 ʰhjak 百

ʰmjak 脈 ropʰpjak 六百

(2)前舌狭母音 / i / の影響 (進行同化) によって後続する直音節が拗音節化してあられる (前号の狭母音 / i / を参照)

ʒiʰk'ja: イカ miɽk'ja:ʰdɪk 三日月

hiʰdʒar 左 ʃiʰrjam 虱

hiʰgjaʃ 東

(3)標準語の強変換動詞 (古代日本語四段動詞) に対応する諸鈍方言の動詞の語幹末にあられる。

ʔi ^h k'jum	行く (カ行四段)
k'u ^g jum	漕ぐ (ガ行四段)
k'ur ^ʔ ʃum	殺す (サ行四段)
mu ^ʔ t'ʃum	持つ (タ行四段)
ʃi ^h njum	死ぬ (ナ行四段)
k'o ^h jum	買う (ハ行四段)
^h ʔjum	言う (ハ行四段)
t'u ^ʔ bjum	飛ぶ (バ行四段)
ʔap ^ʔ pjum	遊ぶ (バ行四段)
nu ^ʔ mjum	飲む (マ行四段)
ji ^h rjum	坐る (ラ行四段)
ʔi ^h dʒam	行った (カ行四段の過去形)
^h ʃam	した (サ変の過去形)
k'i ^h t'ʃam	来た (ラ変の過去形)

2. 2. 5. 2. 唇音化した子音フォネーム

諸鈍方言において唇音化を特徴とする子音フォネームと唇音化を特徴としない子音フォネームの対立は以下のとおりである。

k'	k'	g	h	—	ʔ
k'w	k'w	gw	hw	w	ʔw

以下にしめした(1)~(4)はいずれも声門、軟口蓋を調音点とする子音フォネームである。(5)は喉頭破裂音ʔと喉頭化した半母音の対立で、(6)は半母音の対立である。

(1)	k'i	—	k'ja	k'jo	k'ju
	k'ī	k'ë	k'a	k'o	k'u
	k'wī	k'wë	k'wa	—	—
(2)	k'i	(k'je)	k'ja	k'jo	k'ju
	k'ī	k'ë	k'a	k'o	k'u
	k'wī	k'wë	k'wa	—	—

(3)	go	—	gja	gjo	gju
	gĩ	gë	ga	go	gu
	gwĩ	gwë	gwa	—	—

(4)	hi	—	hja	hjo	hju
	hĩ	hë	ha	ho	hu
	hwĩ	hwë	hwa	—	—

(5)	ʔi	ʔje	ʔja	ʔjo	ʔju
	—	—	ʔa	ʔo	ʔu
	ʔwĩ	ʔwë	ʔwa	—	—

(6)	ji	je	ja	jo	ju
	—	—	—	—	—
	wĩ	wë	wa	wo	wu

問題になるのは(6)のグループのなかの /ji // wu // wo / をどう解釈するかである。

/wo / は語例は少ないが、語頭では [wo]、語中では [ʼo] であらわれる傾向があり、[wo ~ ʼo] とゆれている。唇音化を特徴とする子音フォネームと奥舌半広母音 o とが結合した音節（合拗音節）とみなすことができる。合拗音節に半広母音 /o / を含むのは /w / だけである。

[ʼwo:] 王様、[ʼwo:] 目上の人に対する返答

[tʼʂaʼo: ʼkʼë] 茶請け、[ʼkʼjao ʼro] ごめんください

/ji / は実際の発音は [ʼi] で、ゆるやかに声がちあがり、喉頭化した [ʔi] と対立している。

ʔiʼri:	錐
jiʼri:	襟

喉頭破裂音 /ʔ / を有している方言において、[ʼ] は、その喉頭破裂音と対立する喉頭化していない母音のいりわりにおけるゆるやかな声だてを表示するもので、「ゼロフォネーム」とよばれるものである。上村幸雄1991にしたがって、首里方言などと同様に /ʼri: / とすることもできるが、諸鈍方言のばあい、/kʼi // ʂi / などと同様にこの音節が拗音節の系列にふくまれるこ

とから、他の / ja // je // jo // ju / と同様に / ji / と表記する。

/ wu / も実際の発音は ['u] で、ゆるやかに声がちあがり、喉頭化した [ʔu] と対立している。諸鈍方言の母音フォネーム / u / は円唇であり、これと結合する子音フォネームも標準語にくらべてもかなりの程度に唇音化している。

標準語のばあい、 / ku // mu // hu / を合拗音節にはふくめず、その子音フォネームを唇音化した子音フォネームには分類しないのと同様に、諸鈍方言でも / k'u // mu // hu / を合拗音節にはふくめず、 / k' / や / m / を唇音化した子音フォネームと認めない。おなじように、 ['u] を合拗音節とはみとめず、首里方言のように / 'u / とすることも可能である。しかし、それだと下の(7)のようになり、 / 'u / だけが直音節になり、その音節だけのために / ' / というフォネームをみとめなければならない。

(7)	ji	je	ja	jo	ju
	-	-	-	-	'u
	wi	wë	wa	wo	-

変則的ではあるが、 / wo / の場合と同様に / wu / とする。

摩擦音 h:hw:hj の系列には、例外的に / hwi / という音節がある。これは p → hw → h という琉球方言にみられる唇音性の後退のプロセスで残った残滓であらう。

['hwi:] 女陰

2. 3. 1. 両唇破裂音 / p // b //

/ p / [p'], / pj / [p'j] は無声の両唇破裂音で、喉頭化している。
/ b /, / bj / は有声の両唇破裂音である。

pī	pë	pa	po	pu
pi	pje	pja	(pjo)	pju
bī	bë	ba	bo	bu
bi	(bje)	bja	bjo	bju

2. 3. 1. 1. / p // pj /

標準語のハ行の子音に対応して諸鈍方言では/h/があらわれわたるため、/p/は語例がすくない。先述したように、諸鈍方言に特徴的にみられる喉頭化・非喉頭化の対立はこの無声の両唇破裂音においてはみとめられない。喉頭化しない[p']が音声的にはみとめられるが、喉頭化した[p']と音韻論的に対立するものではない。(注12)

/pī / [ʔap ʔp'i] 遊べ (命令形)

/pē / [ʔip ʔp'ë] 一杯

/pa / [ʔap ʔp'am] 遊ばない、[p'am ʔp'aŋ] 水に物のおちるさま、

/po / [ʰmip ʔp'o] 盲人、[p'om ʔp'uŋ] 水に物のおちるさま、
[ʔap ʔp'o] 遊ぼう (さそいかけ形)

/pu / [ʔap ʔp'una] 遊ぶな、[p'om ʔp'uŋ] 水に物のおちるさま、

/pi / [p'i: ʔjo:] 雛、[p'i: ʔp'i:] 雛の鳴き声、貧乏なさま、

/pje / [ʰp'en] ベン (新語) (注13)

/pja / [rop'p'jak] 六百、[hap'p'jak] 八百、

/pjo / 欠

/pju / [ʔap ʔp'jum] 遊ぶ (注14)

/p / [ʰʔab'ra] 油、[ʰk'up] 首、[ʰʔip] 海老、[ʰrupʰrup] 犬の鳴き声、
[ʰʃip] 歳暮、[ʔap ʔp'jun] 遊ぶ、[ʰmip ʔp'o] 盲人、
[k'up ʔt'ʃi] 縛って、[ʔaʰk'up] 欠伸、[t'o: ʰk'ip] とうもろこし、
[ʰk'jup] 細帯、[ʰk'ib ʔrja] 葱、[ʰk'ib ʔra] 森・林、
[ʰk'ip ʔt'ʃo] 急須

閉音節末にあらわれる p は、後述するように標準語の *bi, *bu に対応している。

[ʰʔap ʔra] 油、[ʰk'up] 首、[ʰʔip] 海老

[na'ʃip] 茄子

また、標準語の / m / に対応してあらわれる / b / が音節をとじる位置にあらわれて、/ p / になる。

[ʔa'ʃip] 汗疹 (あせも)、[k'ip ʔsa] 煙い、[ʔup ʔsam] 重い

[^hk'up^ɾra] ふくらはぎ (腓 [こむら]), [nip^ɾrjum] 眠る、
次の語は標準語のハ行子音に対応していて標準語との対応が特殊である。

[^ɾt'ep] 台風、[^ɾt'op] 豆腐、[t'op^ɾma^ɾmī] 大豆 (「豆腐豆」の意)
音節末の / p / [p'] は有声子音の前きたとき、[b] であらわれることがある。これは後続の有声子音の影響による逆行同化の現象であろう。

[^ht'ip^ɾrja] ~ [^ht'ib^ɾrja] 掌

[^h?ip^ɾri] ~ [^h?ib^ɾri] ものもらい

[^hk'up^ɾra] ~ [^hk'ub^ɾra] ふくらはぎ

[^hk'ib^ɾrja] 葱、[^hk'ib^ɾra] 森・林

2. 3. 1. 2. / b // bj /

有声の両唇破裂音 / b // の多くは標準語の / b // に対応してあらわれる。

標準語

/ba^ɾ/ - /ba / [ba^ɾʃa:] 芭蕉、[su^ɾba:] 側

/bi / - /bi / [ʔu^ɾbi:] 帯

/ p / [^hk'up] 首、[^h?ip] 海老、

/bu / - /bu / [k'u^ɾbu:] 昆布、[^hbun] 盆

/ p / [^h?ab^ɾra] 油

/be / - /bī / [na^ɾbī:] 鍋

/bo / - /bu / [t'ɪ^hbu:] 壺

標準語のばあい、和語は語頭に濁音がかかることがないが、諸鈍方言は多くの琉球諸方言と同様、濁音 (/ b //) が語頭にたつ。

[bu^ɾʃi:] 節 (関節)、[bu^ɾra:] ホラ貝、[bi^ɾk'i:] 蛙、

[^hbaʃ] くわず芋、

標準語の / m // に対応して / b // があらわれることがある。

[k'ɪ^hbuʃ] 煙、[k'u^ɾbu:] 蜘蛛、

その他の語例

/bī / [ha^hbī:^ɾra] 蝶々、[^h?i:^ɾbī] 指、[nu^ɾbī:] 喉、

[mē:^ɾra^ɾbī] 若い娘、

- /bē / {jⁱrja: ɾ bē} はたけ (皮膚病の一種)
 /ba / {jⁱbar} 小便, {bus^usuk} 仏桑華, {su^uba:} 唇,
 {k'u^uba:} 浦葵(くぼ), {na^uba:} 茸, {sa^uba:} 草履(ぞうり)
 /bo / {^ubo:} 棒, {di^ubo:} 尾
 /bu / {^ubur} 鞭, {^ubuʃ} 帽子, {k'u^ubu:} 蜘蛛, {gu^ubu:} ゴボウ,
 {jⁱbur} 冬瓜, {ni^ubu: ɾ t'u} ねぶと, {t'ⁱbuʃ} 膝,
 {ga^ubu:} 瘤(こぶ), {ʔa^ubuʃ} 蛙,
 /bi / {bi^uwa:} ビワ, {bi^uk'i:} 蛙, {^ubin ɾ ta} 頬,
 /bje / {^uʃim ɾ bje~^uʃim ɾ be} カンパチ
 /bja / {^ubja:} 山羊の鳴き声, {san^ubjak} 三百
 /bjo / {^ubjok} 病気
 /bju / {ʔas^ubjum} 遊ぶ, {t'u^ubjum} 飛ぶ, {mus ɾ bjum} 結ぶ,
 {k'a^ubjum} 嗅ぐ

2. 3. 2. 舌先破裂音 / t' // t' // d /

/t'/と/t'/はいずれも無声の舌先破裂音であるが、前者は喉頭化し、
 後者は喉頭化していない。/d/は有声の舌先破裂音である。舌先破裂音は
 いずれも口蓋音化しておらず、口蓋音化した舌先破裂音はない。これに対応す
 るのは舌先の破擦音で、/tʃ//tʃ//dʒ/である。

t'i	t'ë	t'a	t'o	t'u
t'ʃi	t'ʃe	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu
t'i	t'ë	t'a	t'o	t'u
t'ʃi	t'ʃe	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu
dī	dë	da	do	du
dʒi	dʒe	dʒa	dʒo	dʒu

2. 3. 2. 1. / t' // t' /

諸純方言の/t'///t'/は、基本的には標準語のタ行の子音/t'/に対応して
 あられる。標準語のタ行の音節との対応関係はつぎのとおりである。

標準語

／ta／－／t'a／〔ʔt'a:〕田、〔waʔt'a:〕綿
／ci／－／tʃi／〔ʔtʃi:〕血、
〔tʃi〕／tʃ／〔ʔkʰutʃ〕口、〔k'aʔtʃ〕形
／cu／－／t'i／〔t'iʰmī:〕爪、〔t'iʰdīm〕鼓
〔tsu〕／t／〔hʉtʔk'a〕二日、〔ʰnat〕夏
／te／－／t'i／〔ʔt'i:〕手、〔ʰt'in〕天
／to／－／t'u／〔t'uʔji:〕樋、
／t'o／〔ʔiʔt'o:〕糸

標準語の「タ」「テ」「ト」の子音／t／に対応して諸鈍方言では喉頭化しない／t'／があらわれ、／t'a／／t'i／／t'u／（あるいは／t'o／）となる。標準語の「ツ」に対応しては／t'i／あるいは母音が弱化して消失し、音節をとじる／t／があらわれる。諸鈍方言で破擦音 *ts が破裂音化して／t'／に変化したものと推測される。標準語の「チ」に対応する音節の諸鈍方言の子音は喉頭化した／tʃi／もしくは母音が弱化して音節をとじる／tʃ／があらわれる。

また、諸鈍方言は語中でも喉頭／非喉頭の対立があり、先にのべたような規則的な対応からすると喉頭化しない子音があらわれるはずのものが先行する音節の母音が無声化したために、喉頭化した子音／t'／があらわれる。

／t'a／〔hʉʔt'a:〕蓋、〔sʃʔt'a:〕砂糖、
／t'i／〔sʃʔt'it〕蘇鉄
／t'o／〔hʉʔt'on〕布団、
／t'u／〔k'ʉʔt'ʉʃ〕今年、〔t'ʃuʔt'u:〕一年

さらに、先行する無声化した音節が脱落してつぎのような喉頭化した子音が語頭にあらわれる。

〔ʔt'it〕一つ、〔ʰt'at〕二つ、〔ʰt'ar〕二人、

音節をとじる／t／は後続の子音の逆行同化によって〔d〕になることもある。

／t／〔ʰmit〕水　〔midʔgaʔmī〕水瓶

[^hʔit] いつ [ʔid ʔdēm] いつでも

その他の語例

- /t'i/ [t'ir ʔgio] 井戸、[t'ir'na:] 網、[ʔwa:ʔt'ik] 天気、
[ʔut ʔt'i] 一昨日、[t'ʔyʔt'ik] ひとつき、[t'i:ʔt'atʃ] ついたち、
[ʔiʔt'it] 五つ、[^ht'itʃ] 頂、[t'ir'ra:] 顔、[ma^ht'itʃ] つむじ、
[t'ir'di:] 唾、[t'ir'buʃ] 膝、[k'yʔt'i:] 雄牛、[t'ir'no:] つの、
[t'in'dar] 蝸牛、[hyʔt'i:] ヨモギ、[t'ir'bur] 夕顔の実、
[t'o: ʔt'ir'bur] 南瓜、
- /t'ë/ [ha^ht'ë:ʔhë] 畑、
- /t'a/ [^ht'at] 二つ、[^ht'ar] 二人、[t'a^hk'ër] 二回、[k'a^ht'a:] 肩、
- /t'o/ [ha^ht'o:] 鳩、[hyʔt'on] 布団、[^hʔiʔʔt'o: ʔban] 蝶、
- /t'u/ [t'ʔyʔt'u:] 一年、[k'yʔt'uʃ] 今年、
- /t'i/ [t'ir'da:] 太陽、[ʔa^hsa:ʔt'i] 明後日、[^ht'ik ʔk'o] 拳、
[^ht'ib ʔrja] 掌、[ʔu^hmu:ʔt'i] 表、[t'a^ht'i:] 縦、
[t'ik ʔk'jum] つつく、
- /t'ë/ [guʔt'ë:] 体、[ʔt'ëp] 台風、[k'a^ht'ë:ʔmun] おかず、
- /t'a/ [ʔiʔt'a:] 板、[t'a^hru:] 桶 (樽か)、[k'u^hga: ʔt'a^hna] 小刀、
[na^ht'a:] 鉋、[ʔa^ht'ar] 菜園、[ha^ht'atʃ] 二十歳、
[ju^ht'ar] 四人、[^hbin ʔt'a] 頬、[wa^ht'a:] 腹、[t'a^hri:] 陰囊、
[t'a^hnī:ʔʔwa] 種豚、[t'an ʔʔju] いるか、[ga^ht'a:] バッタ、
[t'a^hnī:] 種、[t'a^ht'a: ʔmë] 皿、[t'a^ht'i:] 縦、
- /t'o/ [ʔt'o:] 平らな所、[k'un ʔnja ʔt'o] ゴキブリ、[^ht'o:ʔgī] 鋏、
[t'o: ʔt'ir'bur] 南瓜、[t'o:ʔk'ip] トウモロコシ、[^ht'o:ʔra] 俵、
[t'u^hma: ʔt'o] トマト、[ʔa^ht'o:] 跡、[ʔi^ht'o:ʔk'o] 従兄弟、
- /t'u/ [mi^ht'u:ʔk'a] 晦日、[t'u^hʃi:] 年、[t'u: ʔk'a] 十日、
[^ht'u:] 十、[^ht'ur] 鳥、[ʔʔt'u: ʔgë] 顎、[ni^hbu:ʔt'u] ねぶと、
[t'yʔho:] 蛸、[t'u^hnar] 隣、[t'u^hdzu:ʔt'u] 夫婦、
[ʔu^ht'u:ʔt'u] 年下、[t'yʔk'i:] 時、[^ht'utʃ] 妻、[wu^ht'u:] 夫

音節をとじる / t / は標準語の「ツ [tsu]」に対応してあらわれる。

[^hmit] 三つ、[^hjat] 八つ、[^hʔit「k'a」] 五日、[^hjut] 四つ、
[^hmut] 六つ、[na^hnat] 七つ、[^hmat「gī」] 松、[sǐ^ht'it] 蘇鉄、
音節末の / t / は標準語の「ズ(ヅ) [dzu]」に対応してもあらわれる。

[^hk'it] 傷、[mǐ^hmit] ミミズ、

つぎの語は例外的に「タ [ta]」の母音 *a が消失して、音節をとじる / t /
があらわれるものである。

[^hk'at「na」] 刀

その他の音節末の / t /

[gat^hmar] ガジマル、[ʔu^hmat] 火、[sǐ^ht'it] 羊、

[mǐd「ga「mī」] 水瓶、[^hwut「t'i」] おととい、[t'at「nī」] 辰年、

[hut「k'a」] 二日、[^hʔit「k'a」] 五日、[hat「k'a」] 二十日、

[k'a^hhat] あご、[ʃi「bat「t'i「t'o」] 膀胱、[mat^ht'ap] 蛇の種類、

[t'ad^hdēm] 誰でも

2. 3. 2. 2. / d /

標準語の「ダ」「デ」「ド」の子音 / d / に対応して諸鈍方言では / d / が
あらわれる。また、標準語の「ヅ(ズ)」に対応して諸鈍方言では破裂音化し
た / dǐ / があらわれる。標準語の「ヂ(ジ)」に対応する諸鈍方言の音節は
/ dǐ / である。

標準語－諸鈍方言

/ da / - / da / [ju^hdar] 涎 (よだれ)、[ha^hdaʃ] 裸足

/ zi / - / dǐ / [dǐ:] 地面、[hi^hdǐ:] 肘 (ひぢ)、[sǐ^hdǐ:] 筋 (すぢ)、
[dǐ] / tʃ / [^hgutʃ「rja」] 鯨、[^hk'atʃ] 舵、

/ zu / - / dǐ / [mi「k'ja:」dǐk] 三日月、

[dzu] / t / [^hmit] 水、

/ de / - / dǐ / [ʔu^hdǐ:] 腕、[su^hdǐ:] 袖、

/ do / - / du / [du^hru:] 泥、[wu^hdur] 踊り、

/ do / [k'a^hdo:] 角、[^hnus「do」] 盗人

諸鈍方言の /d/ は、標準語の「ザ」「ズ」「ゼ」「ゾ」の子音 /dz/ に対応してもあらわれる。すなわち、標準語のザ行の子音が有声の破擦音 /z/ [dz] であるのに対して、それに対応する諸鈍方言の子音は有声の破裂音 /d/ なのである。ただし、「ジ」に対応する音節は /dʒi/ であり、標準語の「ジャ」「ジュ」「ジョ」のような拗音節の子音に対応する諸鈍方言の子音も /dʒ/ であり、これも破裂音化しない。

標準語 諸鈍方言

/za/ - /da/ [ʔaˈda:] 痣、ホクロ、[k'amˈdaʃ] 簪 (かんざし)
[dza]

/zi/ - /dʒi/ [ʔdʒi:] 字

[dʒi] /tʃ/ [ʔmjotʃ] 名字

/zu/ - /di/ [niˈdi] ねずみ、

[dzu] /t/ [ˈkʰit] 傷、

/ze/ - /di/ [ʔdiŋ] 銭

[dze] /dē/ [k'aˈdē:] 風、

/zo/ - /du/ [k'uˈdu:] 去年 (こそ)

[dzo] /do/ [ʃinˈdo] 心臓

その他の語例

/di/ [tʰiˈdi:] つば、[haˈdik] いれずみ、[niˈdi] ねずみ、

[diˈbo:] しっぽ、[haˈriːˈdik] 罨、[ʔuˈdi:] かぶ、

[diˈhē:] 竹、[diˈhēŋˈk'wa] 竹の子、[diˈsik] ススキ、

[ʔaˈdi] きね、[huˈdi:] 筆、[k'iːˈdiʃ] 木槌、[iˈdi:] 絵、

[ʔaˈdi:] 十字路、[ˈdir] どれ、[ˈda:] どこ、[ˈdin] どの、

[miˈk'ja:ˈdiˈk'i] 三日月、

/dē/ [dēˈk'uˈni] 大根、[ˈk'jo:ˈdē] 兄弟、[k'utʃˈk'aˈdē] 東風、

[niʃˈk'adē] 西風、[maˈniʃˈk'adē] 北風、[ʃøŋˈk'aˈdē] 南風、

[nuˈdēm] 何でも、[ʔidˈdēm] いつでも、[t'adˈdēm] 誰でも

/da/ [naˈda:] 涙、[siˈda:] 年上、[haˈdaʃ] はだし、

[haˈda:ˈk'a] はだか、[k'iˈda:ˈmun] けだもの (動物の総称)、

〔^hʔje:「da〕 とんぼ、〔t'in^hdar〕 蝸牛、〔ʔa^hdan^hgi〕 アダン、
 〔ju^hda:] 枝、〔k'u^hda:「ra〕 小皿、〔hun「da^hra〕 大皿、
 〔t'i^hda:] 太陽、〔ha^hda:] 肌、〔wu^hnag^hdatʃ〕 やもめ (女)、
 〔^hjiŋ^hga:^hdatʃ〕 やもめ (男)、〔^hʔje:「da〕 間、〔si^hda:「rē〕 すだれ
 /do/ 〔ʔa^hdo:] 踵、〔ma^hdo:「tʃa〕 間食、〔ja^hdo:] 戸 (宿か)、
 〔k'i^hdo:] 門 (木戸)、〔ʃi^h「rju:「hu^hdo〕 台所、〔^hduʃ〕 友、
 〔him「mam^h「mado〕 午前中、〔^hdok〕 道具、
 /du/ 〔^hdu:] 体、〔dun^hsar〕 月経、〔san^hduk〕 夕方、
 〔dum^hbai〕 いっぱい

2. 3. 3. 舌先破擦音 / tʃ / / tʃ / / dʒ /

/ tʃ / と / tʃ / は無声の舌先破擦音で、/ tʃ / は喉頭化していて、/ tʃ / は喉頭化していない。/ dʒ / は有声の舌先破擦音である。/ tʃ / / tʃ / / dʒ / とも口蓋音化を特徴とする子音フォネームである。語例がすくなく、標準語との対応はいまひとつ明確ではないが、つぎのような対応がみられる。

標準語 諸鈍方言

/ci/ - /tʃi/ 〔^htʃi:] 血、
 〔tʃi〕 /tʃ/ 〔^hk'utʃ〕 口、〔^hmitʃ〕 道、
 /cja/ - /tʃa/ 〔^htʃa:] 茶、
 〔tʃa〕
 /zi/ - /dʒi/ 〔hi^hdʒi:] 肘、〔si^hdʒi:] 筋
 〔dʒi〕 /tʃ/ 〔^hk'atʃ〕 舵、〔^hk'otʃ〕 麴、
 /zja/ - /dʒa/ 〔tʃa^h「dʒa:^hwan〕 湯呑 (茶茶碗)
 〔dʒa〕
 /zju/ - /dʒu/ 〔gu^hdʒu:] 五十、〔dʒu:^hsan〕 十三
 〔dʒu〕

また、先行する前舌狭母音 / i / の影響 (進行同化) による口蓋音化によっても、tʃ (← *t)、dʒ (← *d) などの口蓋音化した舌先破擦音が生じた。

[mi^ht^hʃar] 三人、[^ht^hʃur] 一人、

[hi^hdʒar] 左、[mi^hdʒo:] 溝、

標準語の「ザ」「ゼ」「ズ」「ゾ」の子音の舌先破擦音 [dz] に対応する諸鈍方言の子音は、破裂音化して [d] に変化したために諸鈍方言には口蓋音化しない前舌の破擦音 [dz] はないようである。(注15)

その他の語例

/tʃ/ [k^ha^hmatʃ] 頭、[k^ha^hmatʃ^h nju^hk^hi:] 髪、[^ht^hutʃ] 妻、
[matʃ^hmun] 蛇、[^ht^hitʃ] 頂、[dʒo:^hgutʃ] 門、[mun^hgutʃ] 門、
[^hmitʃ] 道、[ma^ht^hitʃ] つむじ、[^hhatʃ] 蜂、
[^hk^hatʃ^h gi] 麻の一種、[k^hi:^hditʃ] 木槌、[ʔitʃ^hnjutʃ] 一日、
[t^hi:^ht^hatʃ] ついたち、[ha^ht^hatʃ] 二十歳、

/tʃi/ [ʔt^hʃi:] 乳、[^ht^hʃi:] 来て、[ʔt^hʃi:] 一日、[t^hʃi^h ma:^h mi] 心臓、
[t^hi^ht^hʃi:] 杵(槌)、[mē:^hʃi^h t^hʃi] 額、[^hʔat^h t^hʃi] 歩いて、
[^ht^hʃit^h rja] 網の一種、[k^hi^ht^hʃi:] 切って、[k^hup^h t^hʃi] 縛って、
[ʔi^hdʒa:^ht^hʃi] 出して、[mut^ht^hʃi] 持って、[ʔu^ht^hu:^ht^hʃi] 落して、

/tʃe/ 欠

/tʃa/ [ʔat^ht^hʃam] 歩いた、[k^hup^h t^hʃam] 縛った、[ʔt^hʃam] 来た、
[ʔi^hdʒa:^ht^hʃam] 出した、[ʔu^ht^hu:^ht^hʃam] 落とした、
[mut^h t^hʃa] 持った、[k^hi^ht^hʃam] 切った、[k^hi^h t^hʃa:^hmun] 着物

/tʃo/ [^hk^hip^h t^hʃo] 急須、

/tʃu/ [^hhut^h t^hʃu] 大人、[^hjan^h t^hʃu] 使用人、[^ht^hʃu:] 人、
[ʃi^h t^hʃu:^hruk] ひよめき、

/tʃi/ [t^hʃi^h k^hja:^hsam] 近い、

/tʃe/ 欠

/tʃa/ [^hho:^h t^hʃa] 包丁、[ʔu^hra:^h t^hʃa] 壁、[ʔt^hʃa:] 茶、
[ma^hdo:^h t^hʃa] 間食、[mi^ht^hʃa:] 土、[t^hʃa^h dʒa:^hwan] 湯呑み、
[ʔa^ht^hʃa:] 明日、[ja^ht^hʃa:^hbo] 独身者、[ma^hna:^h t^hʃa] まな板、

/tʃo/ [^hgwan^h t^hʃo] 元旦

/tʃu/ [mi^ht^hʃu:] 再来年、[t^hʃu^ht^hu:] 一年、[t^hʃu^ht^hik] 一月、

- [tʰʃyʰk'a:] 薬罐、[miʰtʰʃu:ʰnaʰtʰi] おとし、[tʰʃyʰk'er] 一回、
 /dʒi/ [wuʰdʒi:] 叔父、[dʒiʰma:ʰmi] 落花生、[ʔiʰdʒi:] 行って、
 [ʰʔwi:ʰdʒi] 泳いだ、[muʰdʒi:] 田芋、[ni:ʰdʒin] ニンジン、
 [himʰmaʰdʒik] 昼食、[dʒiʰrju:] 炉 (いろり)、[saʰdʒi:] 匙、
 [ʰdʒi:] 字、[dʒiʰgi:] 陸、[ʰdʒi:] 地、
 /dʒe/ 欠
 /dʒa/ [dʒaʰga:] ジャガイモ、[ʔiʰdʒam] 行った、[ʰhinʰdʒa] 山羊、
 [ʔwi:ʰdʒam] 泳いだ、[gaʰdʒam] 蚊、[ʔaʃʰdʒaʰha] 下駄、
 /dʒo/ [dʒo:ʰgutʃ] 門、[ja:ʰninʰdʒo] 家族、[ʰk'inʰdʒo] 近所、
 [ʰninʰdʒo] 仲間
 /dʒu/ [ʰdʒu:] 父、[dʒu:ʰgwadʰdik] 十月、[dʒu:ʰʔitʃ] 十一、
 [dʒu:ʰnin] 十人、[ʰdʒu:ʰni] 十二、[roʰk'u:ʰdʒu] 六十、
 [tʰuʰdʒu:ʰtʰu] 夫婦、[hiʰdʒur] 稲光、[guʰdʒu:] 脇の下、
 [niʰdʒu:] 二十、[sanʰdʒu:] 三十、[ʃiʰdʒu:] 四十、
 [naʰna:ʰdʒu] 七十、[haʰtʰʃi:ʰdʒu] 八十、[k'unʰdʒu] 九十、
 [ʔiʰdʒum] 泉

2. 3. 4. 軟口蓋奥舌破裂音 / k' / · / k' / · / g /

/k'/と/k'/'は、いずれも無声の軟口蓋奥舌破裂音であるが、前者は喉頭化し、後者は喉頭化しておらず、喉頭化の有無によって対立している。/g/は有声の軟口蓋奥舌破裂音である。/k'j//k'j//gj/はいずれも口蓋音化した子音フォネームであり、/k'w//k'w//gw/は唇音化した子音フォネームである。この軟口蓋奥舌破裂音の系列は口蓋音化した子音フォネーム、唇音化した子音フォネーム、口蓋音化も唇音化もしない子音フォネームのみつつの系列がそろっている。

2. 3. 4. 1. / k' / · / k' /

標準語の力行の子音/k'/に対応して諸鈍方言では/k'/'と/k'/'があらわれる。標準語との対応はつぎのとおりである。

標準語 諸鈍方言

/ka / - /k'a / [k'a't'a:] 肩、[k'a'de:] 風、

/ki / - /k'i / [k'i'mo:] 肝、

- /k / [ʰjuk] 雪

/ku / - /k'u / [k'u'mo:] 雲、[ʰk'utʃ] 口

- /k / [sak ʳra] 桜、[ʰmjak] 脈

/ke / - /k'i / [ʰk'i:] 毛、

/ko / - /k'u / [ʰk'uʃ] 腰、[k'u'ji:] 声

/k'o / [ʔi't'o: ʳk'o] 従兄弟、

標準語のカ、ケ、コに対応する音節では、喉頭化しない k' があらわれ、キ、クに対応する音節では喉頭化した k' があらわれるのが、原則である。

標準語のキ、クに対応して音節をとじる /k / があらわれる。

*ki > k

[ʰk'ak] 垣、[ʰsik] 犁 (すき)、[ʰnuk] 横糸 (貫き)

[sik ʳma] 隙間、[ʰmak] 牧、[ʰt'ak] 崖 (滝)

*ku > k

[ʰhjak] 百、[ʰmak ʳra] 枕、[sak ʳra] 桜、[ruk'nin] 六人

後述するように、ギ、グに対応しても音節をとじる /k / があらわれる。

*gi > k [ʰk'uk] 釘、[ʰmik] 右

*gu > k [ʳdok] 道具、

音節をとじる位置にあらわれる子音フォネームは、狭母音 i, u の消失が原因で生じるが、次の語は半広母音 *o の消失によって音節をとじる /k / が生じている稀な例である。

[t'a'bak] 煙草、[ʰhwak] 箱

音節をとじる /k / は後続する有声子音の影響 (逆行同化) によって /g / になることがある。

[ʰhig ʳru] 垢、[sag ʳra] 桜、[rog ʳgwad'dik] 六月

広母音 *a と半広母音 *e, *o にはさまれた /k' / は /h / に変化する。(注 16)

-aka-	>	-aha-	(na`ha:) 中
-ake-	>	-ëhë-	(ha`t`ë:「hë) 畑
-ake-	>	-ëhë- > -ihë-	(dī`hë:) 竹
-ako-	>	-oho- > -uho-	(t`u`ho:) 蛸、
-oko-	>	-oho- > -uho-	(k`u`ho:「ro) 心
-oke-	>	-ëhë- > -ihë-	(wī`hë:) 桶
-eke-	>	-ëhë- > -ihi-	(ji`hir) ちけり

ただし、つぎの語例のように / k' / であらわれるものもあり、すべてが / h / に変化するわけではない。いかなる条件で / h / に変化するのか、不明である。

{ju`k`u:} 横、{su`k`u:} 底、{ha`da:「k`a} 裸、

その他の語例

- /k`i/ {`mīŋ「k`i} 睫毛、{k`i「da:´mun} 動物、{´k`i:} 木、
{k`i`buŋ} 煙、{k`i:´dītŋ} 木槌、{`k`ib「ra} 森・林、
- /k`ë/ {t`a`k`ër} 二回、{mi`k`ër} 三回、{ju`k`ër} 四回、
{na`na:´k`ër} 七回、{mu`k`ër} 六回、{k`y`hoŋ´k`ër} 九回、
{ja`k`ër} 八回、{t`u: `k`ër} 十回、{mu`k`ë:} 向かい、
{k`ë: `j`i「ma} 裏返し
- /k`a/ {k`a`matŋ} 頭、{k`u`mī:´k`am} こめかみ、{ha`da:「k`a} 裸、
{k`a`mī:} 亀、甕、{k`a`ra:} 芋の葉、{`k`atŋ「gī} 麻の一種、
{k`a`t`i:´mun} おかず、{ju`k`a:} 床、{k`a`wa:「ra} 瓦、
{k`a`ma:} かまど、{`k`ak} 垣、{k`a`ma:} 鎌、{k`a`sa:} 笠、
{k`a`gam} 鏡、{`k`at「na} 刀、{`k`am} 紙、{k`a`na:} 鉋、
{`k`atŋ} 舵、{k`a`nī:} 金、金属、{k`a`gë:} 影、{k`am´nar} 雷、
{mi`t`u:「k`a} 晦日、{mu´k`aŋ} 昔、{mui `k`a} 六日、
{`nanŋ「k`a} 七日、{jo: `k`a} 八日、{k`u`hoŋ「k`a} 九日、
{t`u: `k`a} 十日、{k`a`do:} かど、
- /k`o/ {`mīŋ「k`o} 險、{´k`o:} 皮、皮膚、{k`o:´mor} コウモリ、
{`k`o:「ŋa} 山芋、{`k`otŋ} 薺、黴、{´k`o:} 粉、{`k`o:} 川、

〔ʼk'o:] 無尽講、〔k'o:ɾri〕氷（新語）

- ／k'u / 〔k'uɾmi:ʼk'am〕こめかみ、〔k'uɾmi:] 米、〔^k'ubɾra〕ふくらはぎ、
〔k'u〕〔k'uɾbu:] 昆布、〔k'uɾbu:] 蜘蛛、〔dē: ɾk'uɾni〕大根、
〔k'u^muk〕小麦、〔k'uɾda: ɾra〕小皿、〔k'u^ba:] 蒲葵、
〔k'uɾga: ɾt'aɾna〕小刀、〔k'uɾmor〕窪み・穴、〔k'uɾdu:] 去年、
〔k'u^t'u:ɾba〕言葉、〔ju^k'u:] 横、〔su^k'u:] 底、〔^k'ur〕これ、
〔k'u^ma:] ここ、〔^k'un〕この、
〔k'ɥ〕〔k'ɥk'i:] 茎、〔k'ɥsa:] 草、〔k'ɥsu:] 糞、〔k'ɥʃi:] 櫛、
〔k'ɥt'i:] 雄牛、〔k'ɥʃo:] 胡椒、〔k'ɥt'uʃ〕今年、
／k / 〔ʃiɾt'ʃu:ʼruk〕ひよめき、〔^ʔak〕えら、〔^nik〕いびき、
〔haɾdik〕いれずみ、〔'uɾnak〕女、〔go: ɾmuk〕内臓、
〔diɾsik〕ススキ、〔busɾsuk〕仏桑華、〔saɾbak〕櫛、
〔ʔwa:ɾt'ik〕天気、〔ju^makɾrē〕夕暮、〔ʔaɾha:ɾt'uk〕夜明け、
〔^hik〕親類、〔^nok〕虹、〔ʼgək〕しゃっくり、〔^sak〕先、
〔huɾru:ʼʃik〕風呂敷、〔hatʃɾmak〕鉢巻き、〔sanɾduk〕夕方、
〔ʼhok〕箒、〔^nagɾgwa〕菜っ葉、〔^hugɾru〕袋、
／k'i / 欠
／k'ë / 〔^k'ë:] 叔母、〔t'ʃɥk'ër〕一回、〔ʔitɾk'ër〕五回、
／k'a / 〔mok ɾk'a〕パパイヤ、〔^nikɾk'a〕葱、〔t'ʃɥk'a:] やかん、
〔sɥ^k'a:ɾma〕朝、〔hut ɾk'a〕二日、〔^ʔitɾk'a〕五日、
〔hat ɾk'a〕二十日、
／k'o / 〔^t'ikɾk'o〕拳、
／k'u / 〔ʔa^k'up〕あくび、〔hɥk'u:] 肺臓、〔k'un ɾnjaɾt'o〕ゴキブリ、
〔^k'up〕首、襟、〔sɥ^k'u:ɾbu〕もみがら、〔k'uɾra:] 倉、
〔ma^k'ur〕海人草、〔saɾk'uʃ〕しゃくし、〔^k'uk〕釘、
〔k'u^bum〕窪み、〔ro^k'u:ɾdʒu〕六十、〔k'un ɾdʒu〕九十、
〔k'u^nin〕九人、〔ʔuɾk'u:] 奥、〔ʔiɾk'ut〕いくつ、

2. 3. 4. 2. / g /

/ g / は標準語の / g / に対応してあらわれる。

標準語 諸鈍方言

- /ga/ - /ga/ [ha^ɾga: ^ɾma] 羽釜、
/gi/ - /gi/ [mu^ɾgi:] 麦、
 / k / [ʰk'uk] 釘、[k'u^ɾmuk] 小麦、
/gu/ - /gu/ [hu^ɾgur] 擧丸（「ふぐり」に対応）
 / k / [ʷdok] 道具
/ge/ - /gĩ/ [ha^ɾgĩ:] はげ
 / gẽ / [k'a^ɾgẽ:] 影、
/go/ - /gu/ [gu^ɾma:] 胡麻

標準語の和語のばあい、語頭に濁音がくることがないが、諸鈍方言は標準語の語頭の清音に対応して濁音（このばあい / g /）がくることがある。

[ga^ɾras] カラス、[ga^ɾdʒam] 蚊、[ʰgutʃ^ɾrja] 鯨、[ʰgan] 蟹、
[gu^ɾji:] 杭

その他の語頭に g があらわれる例

[ga^ɾra:^ɾsĩp] カラス蛇、[ga^ɾt'a:] バッタ、[gat^ɾmar] ガジマル、
[ga^ɾja:] 茅、[gi^ɾbu:] しやこ貝、[gu^ɾdʒu:] 脇の下、
[gut ^ɾt'o:] みんな、

その他の語例

- /gĩ/ [ʰmat^ɾgĩ] 松、[ju^ɾna:^ɾgĩ] ユウナ、[ʔa^ɾdaŋ^ɾgĩ] アダン、
[ʰk'wa:^ɾgĩ] 桑、[ʰk'atʃ^ɾgĩ] 麻の一種、[ʰt'o:^ɾgĩ] 鋏、
[ʔa^ɾgĩ:] 陸、[t'i^ɾno:^ɾgĩ] 手拭い、
/gẽ/ [ʔu^ɾt'u:^ɾgẽ] 顎、[ʷgẽk] しやっくり、[k'a^ɾgẽ:] 影、
[k'aŋ ^ɾgẽ^ɾrjum] 考える
/ga/ [k'u^ɾga:^ɾt'a^ɾna] 小刀、[ga^ɾbu:] 瘤、[ju^ɾgo:^ɾga^ɾsa] 疥癬、
[ʰiŋ^ɾga] 男、[k'u^ɾga:] 卵、[dʒa^ɾga:] じゃがいも、
[k'a^ɾgam] 鏡、[ma^ɾga:] 孫、[ʔa^ɾga:^ɾʃum] あんな、
[nu:^ɾga] 何故、

/go/ (ju^ɾgo: ɾga^ɾsa) 疥癬、(go: ɾmuk) 内臓、(ʔa^ɾgo:) 姉、
 /gu/ (gu^ɾbu:) ごほう、(gu^ˆnin) 五人、(gu^ɾmi:) ゴミ、
 (gu^ɾdʒu:) 五十、(gu^ɾgwad^ɾdik) 五月、(gu^ɾʃam) 杖、
 (ma^ɾgur ɾwa^ɾt'a) 腸、(ni^ɾgur) 根、(si^ɾgur ɾga^ɾni) 針金、
 (da^ɾgu:) たんこぶ、(niŋ ɾgu^ɾro) 恋人、(mar ɾgu^ɾho) おむつ、

2. 3. 4. 3. /k'j // k'j // gj /

口蓋音化した奥舌軟口蓋の破裂音 /k'j // k'j // gj / は次のようなばあい
にあらわれる。(注17)

(1) 標準語の拗音節に対応する音節にあらわれる。

(^ɾk'ju:) 今日、(^ˆk'jo: ɾdē) 兄弟、(^ˆmiŋ ɾgjo) 人形

(2) 先行する前舌狭母音 *i の影響（進行同化）による口蓋音化によってあら
われる。

(ʔi^ˆk'ja:) イカ、(t'ʃi^ɾk'ja: ɾsam) 近い、(hi^ɾgjaʃ) 東、

(ʔi^ɾgjak) 石垣、(ni^ɾgja: ɾʔu^ɾri) 苦瓜

(3) カ行四段動詞、ガ行四段動詞に対応する諸鈍方言の動詞の語幹末にあらわ
れる。

(ʔak^ɾk'jum) 歩く、(t'ik ɾk'jum) つつく、(ʔi^ˆk'jum) 行く、

(k'i^ˆk'jum) 聞く、(ʔwi: ɾgjum) 泳ぐ、(k'u^ɾgjum) 漕ぐ

その他の語例

/k'i / (^ˆʔir ɾk'i) ふけ、(ʔi^ˆk'i:) 行け (命令形)

(k'i) (k'i: ɾbi) 小指、(^ˆk'in) 鶏のけづめ

(k'i) (k'i^ɾʃir) 煙管、(k'i^ɾt'a:) 北、

/k'je / (k'o^ɾk'je: ɾk'okk'o) 鶏の鳴き声、

/k'ja / (mi^ɾk'ja: ɾdi^ɾk'i) 三日月、(ʔi^ˆk'jam) 行かない、

(^ˆwa: ɾk'ja) 私たち、(ʔu^ˆra: ɾk'ja) あなたたち、

(^ˆna: ɾk'ja) あなたたち、

/k'jo / (^ˆk'jo: ɾdē) 兄弟、

/k'ju / (^ɾk'jum) 来る

- /k'i/ 〔k'it〕 きず、〔wa'k'i:] わきのした、〔hij'k'i:] 背中、
 〔2i'k'i:] 息、湯気、〔bi'k'i:] 蛙、〔k'i:「ja〕 セミ、
 〔t'o:ʔk'ip〕 トウモロコシ、〔k'ib「rja〕 葱、〔k'i'ido:] 門（木戸）、
 〔k'ip「t'jo〕 急須、〔k'in〕 着物、〔t'ij'k'i:] 月、〔k'i'nju:] 昨日、
 〔2a'k'i:] 秋、〔t'u'k'i:] 時、〔k'in「d3o〕 近所、〔k'ir ʔhwë〕 霧、
 /k'ja/ 〔2i「k'jas ʔsa〕 いくら、〔2i「k'ja: ʔʔi〕 どうして、
 〔2ak'k'jam〕 歩かない、〔2ik ʔk'ja'sam〕 短い、
 /k'jo/ 〔hij'k'jos〕 挽き臼、〔gak「k'jo〕 ラッキョウ、
 /k'ju/ 〔ʔk'jup〕 細帯、〔2ak'k'jum〕 歩く、〔t'ik ʔk'jum〕 つつく、
 〔huj'k'jum〕 吹く、〔ha'k'jum〕 掃く、
 /gi/ 〔hi'gi:] ひげ、〔ha'gi:] 足、〔wu'gi:] 砂糖黍、〔mu'gi:] 麦、
 〔2u「hu: ʔmu「gi〕 大麦、〔ni'gi:] 棘、〔miʔ「gi〕 シャもじ、
 〔gi'hwə:] 簪、〔no「ho:ʔgir〕 鋸、〔gin「no〕 金槌、
 〔d3i'gi:] 陸、〔bu'gin「ʔa〕 金持ち、
 /gja/ 〔hi'gjaʔ〕 東、〔2iʔ'gjak〕 石垣、〔ni「gja: ʔ2u「ri〕 苦瓜、
 〔2i'gja:] どもり、
 /gjo/ 〔t'ir ʔgjo〕 井戸、〔minj「gjo〕 人形、
 /gju/ 〔në:ʔgjum〕 びっこをひく、〔2wi:ʔgjum〕 泳ぐ、〔k'u'gjum〕 漕ぐ

2. 3. 4. 4. /k'w // k'w // gw /

唇音化した奥舌軟口蓋の破裂音の語例は以下のとおりである。

- /k'wī / 〔k'wī:ʔjum〕 越える、
 /k'wë / 〔k'wë:] 飼え、〔ʔk'wë:] 買え、
 /k'wa / 欠
 /k'wī / 〔k'wī:] 閉めろ（命令形）、〔ʔk'wī:] 噛め
 /k'wë / 〔ʔk'wë:] 肥料、
 /k'wa / 〔k'wa'ʔi:] 菓子、〔sui ʔk'wa〕 西瓜、〔wuik ʔk'wa〕 甥、
 〔mīk「k'wa〕 姪、〔k'wa:] 子、〔di'hëj「k'wa〕 竹の子、
 /gwī / 欠

/gwë / (ʔusëgwë) 追肥 (上村資料)

/gwa / {jo: ʔgwad`dik} 一月、{ni ʔgwad`dik} 二月、
{san ʔgwad`dik} 三月、{ʃi ʔgwad`dik} 四月、
{go ʔgwad`dik} 五月、{ruk ʔgwad`dik} 六月、
{ʃitʃ ʔgwad`dik} 七月、{hatʃ ʔgwad`dik} 八月、
{k'u ʔgwad`dik} 九月、{dgu: ʔgwad`dik} 十月、

2. 3. 5. 声門音および半母音

諸鈍方言の声門音には声門摩擦音 /h / と声門破裂音 /ʔ / (喉頭破裂音ともいう) とがあり、半母音には喉頭化した /ʔw / / ʔj / 喉頭化していない /w / / j / がある。

2. 3. 5. 1. 声門破裂音 /ʔ / と喉頭音化半母音 /ʔw / / ʔj /

喉頭破裂音 /ʔ / は、他の子音フォネームと同様に母音フォネームのまえにくるものである。この喉頭破裂音 /ʔ / は、琉球方言、とりわけ北琉球方言に特徴的なフォネームである(注18)。

標準語のばあい語頭に母音がかくるとき、この喉頭破裂音 ʔ があらわれることがあるが、音韻論的な単位とはみなされないが、琉球方言のばあい単語、および単語の文法的な形を他の単語、および他の文法的な形から区別するための音韻論的な単位として機能する。すなわち、フォネームとして存在するのである。

/ʔ / は標準語のア行の音節に対応する諸鈍方言の音節の子音としてあらわれる。ただし、標準語の「エ」には /ʔi / に対応するものと /i / に対応するものがある。前者が古代日本語のア行の「エ」に、後者がヤ行の「エ」に対応する。これは母音の項でのべたとおりである。

標準語

/a / - /ʔa / {ʔa`mi:} 網、{ʔa`mī:} 雨、
{i / - /ʔi / {ʔiʃ} 石、{ʔi`k'i:} 息、
{u / - /ʔu / {ʔuʃ} 牛、{ʔu`mi:} 海

／e／ - ／ʔi／ [ʔip] 海老、[ʔiʔra:ʔbjum] 選ぶ
／ji／ [ʔji:] 柄、
／o／ - ／ʔu／ [ʔuʔt'u:] 音、

／ʔe／は口蓋音化した系列（拗音節）に属し、[ʔje ~ ʔe] のようにゆれている。

ʔi, ʔe という音節は存在しないようである。この音節のあらわれることが予想される音環境をもった単語はあるが、つぎのようにあらわれる。

① *ai > ē: が予想されるが、／ʔe:／, ／je:／になっている。

ʔje: 藍

ʔje:ʔ da 間、トンボ

muʔje: 模合（無尽講）

② *e > i が予想されるが、／ʔi／や／ji／があらわれる。

ʔip 海老、

ʔiʔra:ʔbjum 選ぶ

jiʔdi 絵（絵図に対応）

ʔji: 柄、

／ʔj／／ʔw／は語頭の母音が脱落して生じているようである。

*iwo > *ʔiju > ʔju: (魚)

*iwaja > ʔiwaja > ʔjanʔ ja (洞穴、岩屋)

*uwe > ʔuwē > ʔwī: (上)

*uwabe > ʔuwabē > ʔwa:ʔ bē (表面、上辺)

その他の語例

／ʔi／ [ʔiʔʔk'i] うろこ、[ʔiʔgja:] どもり、[ʔi:ʔbi] 指、
[ʔiʔʔri] ものもらい、[ʔin] 犬、[ʔip] 海老、
[ʔiʔk'ja:] イカ、[ʔiʔni:] 稲、[ʔiʔno:] 内海、[ʔiʔri:] 錐、
[ʔiʔt'a:] 板、[ʔiʔdzum] 泉、[ʔitʔnjutʔ] 一日、[ʔiʔt'it] 五つ、
[dzu:ʔitʔ] 十一、[ʔiʔt'o:ʔk'o] いとこ、[ʔiʔhwē:] 位牌、

{2i「ri: ʔsak} 移住者

/ʔe / {ʔʔje:「da} 間、{ʔʔje:「da} トンボ、

/ʔa / {ʔaʔkʷ} あくび、{ʔaʔda:} あざ、ほくろ、{ʔaʔsi:} 汗、

{ʔʔan} 蟻、{ʔʔak} えら、{ʔaʔdo:} かかと、

{ʔaʔdan「gi} アダン、{ʔʔab「ra} 油、{ʔaʔsi:} 朝ごはん、

{ʔaʔdim} 杵、{ʔaʔdʒa「ha} 下駄、{ʔaʔmi:} 網、{ʔaʔbuʃ} 蛙、

{ʔaʔtʰar} 菜園、{ʔaʔgi:} 陸、{ʔaʔtʰa:} 明日、

{ʔaʔsa:「tʰi} あさって、{ʔa「ha:ʔtʰuk} 夜明け (暁)、

{ʔaʔkʰi:} 秋、{ʔaʔgo:} 姉、{ʔaʔni:} 姉 (呼称)、{ʔaʔnjo:} 兄、

{ʔaʔtʰo:} 跡、{ʔaʔdi:} 十字路、

/ʔo / {ʔʔo:} 粟、{ʔʔo:「sa} あおさ、{ʔʔo:} 泡、

/ʔu / {ʔu「tʰu: ʔgè} 顎、{ʔuʔru:} のど、{ʔuʔdi:} 腕、{ʔuʔmi:} 臆、

{ʔʔuʃ} 牛、{ʔuʔma:} 馬、{ʔuʔmu:} 芋 (里芋)、

{ʔu「hu: ʔmu「gi} 大麦、{ʔuʔri:} 胡瓜、{ʔuʔdi:} 蕪 (かぶ)、

{ʔuʔmat} 火、{ʔuʔsi:} 臼、{ʔuʔmi:} 海、{ʔuʔʃu:} 海水、

{ʔuʔru:} 珊瑚の砕けた小石、{ʔuʔtʰu:「tʰu} 弟、{ʔuʔja:} 親、

{ʔuʔkʰu:} 奥、{ʔuʔra:} うら、{ʔuʔmu:「tʰi} おもて、

{ni「gja: ʔʔu「ri} 苦瓜、

/ʔja / {ʔʔjam} 言わない、{ʔʔjan「ja} 洞穴、

/ʔjo / {ʔʔjo:} 言おう、

/ʔju / {ʔʔju:} 魚、{ʔʔjum} 言う、{ʔʔju:「ʃa} 唾、{tʰanʔʔju} いるか、

/ʔwi / {ʔʔwi:} 上、{ʔwi: ʔsiba} 上唇、{ʔwi:ʔgjum} 泳ぐ、

{ʔwi: ʔnutʰʃu} ねずみの異称、

/ʔwë / 欠

/ʔwa / {ʔʔwa:} 豚、{ʔwa:ʔtʰik} 天気、{ʔwa: ʔbè} 表面、

2. 3. 5. 2. 声門摩擦音 / h // hj // hw /

沖繩本島北部、与論島、宮古、八重山の諸方言に残存している古代ハ行子音のpが諸鈍方言では摩擦音 / h / に変化していて、標準語の語頭の / h / に対

応して諸鈍方言でも / h / があらわれる。

標準語 諸鈍方言

/ha / - /ha / [ha'na:] 鼻、花、[ha'gi:] 禿

/hwa / [hwak] 箱、[hwa:] 葉、

/hi / - /hi / [hi'gja:] 東、[hi'dzar] 左、

/hu / - /hu / [hu'ni:] 船、

/he / - /hwi / [hwi'ra:] 籠、[hwī:] 屁、

/ho / - /hu / [hu'ni:] 骨、[hu:] 星、

標準語の / ha / に対して諸鈍方言で / ha / と / hwa / が対応するのだが、両者のあらわれ方は、人によっても単語によってもことなるようであるが、年寄りほど / hwa / のあらわれる頻度がたかくなるようである。これまで得られた資料でそのあらわれ方をみると以下のようなになる。この / hw ~ h / の変異は広母音 / a / と結合するときにかぎられるようである。

(1) / ha / だけ

[ha'na:] 鼻、[ha'gi:] 禿、[ha'gi:] 足、[ha'da:「k'a」] 裸、

[ha'da:] 裸足、[ha'da:] 肌、[ha'dik] 刺青、[ha'ni:] 羽、

[ha't'o:] 鳩、[hat] 蜂、[ha'bi:「ra」] 蝶、[ha'nus] 甘薯、

[ha'na:] 花、[ha'na:] 端、[ha「ga:「ma」] 羽釜、[hat「k'a」] 二十日、

[ha't'ë:「hë」] 畑、[har「ga「ni」] 針金、[ha'ru:] 畑、[ha'sam] 鋏、

[ha'ma:] 浜 [ha'ru:] 春、[ha't'ji:] 鉢、[ha't'at] 二十歳、

[hat'v'nin] 八人、[ham'v'bun] 半分、[han「ni」] 祖母、[ha'rut] 親戚、

[hat'v'mak] 鉢巻き

(2) / ha ~ hwa / とゆれるもの

[hwa'rja:] 柱、[hwa'ji:] 箸、[hwa'ri:] 針、[hwa] 橋、

(3) / hwa / だけ

[hwa:] 齒、[hwa:「jasë」] 葉野菜、[hwa:] 葉、[hwa:] 刃、

[gi'hwa:] 簪、[hwak] 箱、

(1)のグループの単語でも「/ hwa ~ / ともいいませんか」と聞くと、「それも言う」という返事がかえってくることがあるし、(3)のグループの単語でも、

より若い世代（60代から70代）では／ha～／があらわれることがある。

例外的に／hwi／という音節がある。これは p→hw→h という琉球方言にみられる唇音性の後退のプロセスで残った残滓であろう。これまでの調査では以下の1語だけにみられた。

〔^hhwi:] 女陰

古代日本語にみられる語中のハ行の子音は、ハ行転呼音とよばれる音韻変化によって、子音／h／は／w／に変化し、さらに母音aを後続させるばあいをのぞき、脱落して、母音連続をつくりだすのだが、諸鈍方言ではさらにつぎのように変化している。

	古代日本語	標準語	諸鈍方言
「は」	粟（あは）	あわ	^h ʔo:
	俵（たはら）	たわら	^h t'o:「ra
	皮（かは）	かわ	^h k'o:
	縄（なは）	なわ	^h no:
「ひ」	間（あひだ）	あいだ	^h ʔje:「da
	腕（かひな）	かいな	^h k'ë:「na
「へ」	前（まへ）	まえ	^h më:
	蠅（はへ）	はえ	^h ʔë:
	上（うへ）	うえ	^h ʔwī:
	苗（なへ）	なえ	^h në:
「ふ」	扇（あふぎ）	おうぎ	^h ʔok
	今日（けふ）	きょう	^h k'ju:

広母音と半広母音にはさまれた *k' が諸鈍方言で／h／に変化する。

*-aka- > -aha-

〔t'a^hha:「sa〕高さ、〔ʔa^hha:「sa〕赤さ、〔na^hha:「ʔi: ʔbi〕中指、
〔ma^hhar〕腕、〔ju^hna:「ha〕夜中、〔na^hha:「ra〕半分、
〔ʔa〕 ʔdʒa「ha〕下駄（足高か）、〔na^hha:] 中、〔ʔa「ha:ʔt'uk〕暁、
〔wa「ha:ʔsam〕若い、〔sa「ha:ʔjima〕逆さま、

*-ake- > -ëhë-

[së^ɾhë:^ɾrjum] 裂ける、[ha^ˈt^ˈë:^ɾhë] 畑、

*-ake- > -ëhë- > -ihë-

[dī^ˈhë:] 竹、[sī^ˈhë:] 酒、

*-ake- > -ëhë- > -ihë- > -ihë-

[ji^ɾhë:^ɾrjum] 焼ける、[ju:^ɾji^ɾhë] 夕焼、[ʔa^ɾsa:^ɾji^ɾhë] 朝焼け、

*-ako- > -oho- > -uho-

[t'u^ˈho:] 蛸、[ju^ˈho:] 權 (いやこ?)

*-oko- > -oho- > -uho-

[k'u^ˈho:^ɾro] 心、[k'u^ɾho:^ɾnot] 九つ、[k'u^ˈhoj^ɾk'a] 九日、

[mu^ˈho:] 婿 (これは「モコ」にさかのぼる)

[mar^ɾgu^ɾho] おむつ (←沖縄方言 [kako:])

*-oke- > -ëhë-

[bot^ɾwë^ɾhë] 坊主桶 (把手のない桶)

*-oke- > -ëhë- > -ihë-

[wī^ˈhë:] 桶

*-eke- > -ihī- > -ihī-

[ji^ˈhir] 妻けり (女性の側から見た兄弟)

*-oka- > -uhwa-

[ju^ˈhwa:] 八日

このとき、/h/の両側でおきる母音の同化 (速隔同化) については母音 /ë/ および /o/ の項でのべたとおりである。(注19)

/hi/ [ˈhir] 昼、[ˈhik^ɾru] 垢、[hi^ˈgi:] 髭、[ˈhik] 親類、

[hi] [hi^ˈdzi:] 肘、[hi^ˈdzur] 稲光、

[h̥j] [h̥j^ˈk'i:] 背中、[h̥j^ˈk'jos] 挽き臼、[h̥j^ˈʃi:] 干瀬、

/hī/ [ʔa^ɾsa:^ɾji^ɾhī] 朝焼け、[ju:^ɾji^ɾhī] 夕焼け、

/hë/ [ˈʃe:^ɾhë] 咳、[ji^ɾhë:^ɾrjum] 焼ける

/ha/ [ˈhatʃ] 蜂、[ˈhaʃ] 橋、[ha^ˈru:] 春、[hat^ɾk'a] 二十日、

[ha^ɾga: ɾma] はがま、[ha^ɾgi:] 禿、[ha^ɾgi:] 足、
[ha^ɾt'atʃ] 二十歳、[ha^ɾdik] 刺青、[ha^ɾdaʃ] 裸足、
[ha^ɾda: ɾk'a] 裸、[ha^ɾda:] 肌、[hap^ɾajak] 八百、
[ha^ɾbī: ɾra] 蝶々、[ha^ɾt'ʃi: ɾdʒu] 八十、[ha^ɾsam] 鋏、
[ha^ɾnus] サツマイモ、[ha^ɾʃi:] お箸、[ha^ɾni:] 羽、
[^hhan ɾni] 祖母、[hatʃ^ɾmak] 鉢巻き、[k'a^ɾhat] 顎、

/ho/ [^hho: ɾt'ʃa] 包丁、

/hu/ [^hhuʃ] 星、[ʔu ɾhu: ɾmu ɾgi] 大麦、[^hhuk ɾru] 袋、

[hu] [hut ɾk'a] 二日、[hu^ɾgur] 擧丸、[ʔu^ɾhu: ɾsa] 大きい、
[hu^ɾsu:] へそ、[hu ɾru: ɾʃik] 風呂敷、[^hhuʃ ɾʃu] 祖父、
[hu^ɾni:] 骨、[hu^ɾhum] 埃、

[hʉ] [hʉ^ɾt'a:] 蓋、[hʉ^ɾk'u:] 肺、[hʉ^ɾt'i:] よもぎ、[hʉ^ɾt'on] 布団、

/hja/ [^hajak] 百、[hja: ɾhjan] 毒蛇の一種

/hjo/ [hjo: ɾt'an] ひょうたん、[hjo: ɾʃik] 拍子木、

/hju/ [^hhjuɾ] 日和、

/hwi/ [^hhwi:] 女陰、

/hwī/ [^hhwī:] 尻、[ʔu ɾhwī: ɾjum] 起きる

/hwē/ [^hhwē:] 石灰、[ʔi^ɾhwē:] 位牌、

/hwa/ [^hhwak] 箱、[gi^ɾhwa:] 簪、[hwa: ɾjasē] 葉野菜、

[ju^ɾhwa:] 四日、[ju ɾhwa: ɾna ɾt'i] 一昨々日、

2. 3. 5. 3. 半母音 / w // j //

/w/は古代日本語のワ行の音節のア段、オ段の音節の子音に、/j/はヤ行の子音、および古代日本語のワ行のイ段、エ段の音節の子音に対応してあらわれる。

/wa/ - /wa/ [wa^ɾra:] 藁、[wa^ɾt'a:] 綿

/wi/ - /ji/ [^hi^ɾrum] 坐る、

/we/ - /ji/ [^hi^ɾdī:] 絵図、

/wo/ - /wu/ [^hun] 斧、[^hu^ɾdur] 踊り

- /ja / - / ja / [ja^ˈma:] 山、[^ˈjat] 八つ
 /ju / - / ju / [ˈju:] 湯、[^ˈjuk] 雪、
 /jo / - / ju / [ju^ˈmī:] 嫁、[ju^ˈdar] よだれ

 /ji / [ˈi:] 柄、[i^ˈ hē:^ˈ rjum] 焼ける、[ˈi: ˈrjo] ひも、
 [ˈiŋ ˈga] おとこ、[ʃo^ˈ ˈi:] 醤油、[t^ˈu^ˈ ˈi:] 樋 (とい)、
 [k^ˈu^ˈ ˈi:] 声、[gu^ˈ ˈi:] 杭、[ʔa^ˈ sa: ˈi^ˈ hī] 朝焼け、
 [ju: ˈi^ˈ hī] 夕焼け、[i^ˈ hir] 兄弟、[i: ˈgu^ˈ rē] 酔っぱらい、
 [i:^ˈ wak] ユイ (結)、
 /je / [mu^ˈje:] 模合 (無尽講)、
 /ja / [^ˈjat] 八つ、[^ˈjak ˈmē] 兄、[ˈja:] 家、[ja^ˈk^ˈēr] 八回、
 [ja^ˈmor] やもり、[ja^ˈdo:] 戸 (宿か)、[^ˈjan ˈt^ˈʃu] 使用人、
 [ja: ˈnin ˈdʒo] 家族、[^ˈjam ˈmē] 庭、[ʔu^ˈja:] 親、
 [hwa: ˈjasē] 葉野菜、[^ˈjam ˈmē] 庭、[ja^ˈt^ˈʃa: ˈbo] 独身者、
 [ˈk^ˈi: ˈja] セミ、[ga^ˈja:] 茅、
 /jo / [ˈjo: ˈnī] 夜、[ma^ˈjo:] 眉、[pi: ˈjo:] ひよこ、
 /ju / [ju: ˈji ˈhē] 夕焼、[ju^ˈhwa:] 四日、[^ˈjut] 四つ、
 [ju^ˈna: ˈha] 夜中、[ju^ˈho:] 櫛、[ju^ˈdar] よだれ、[ju^ˈk^ˈu:] 横、
 [ju^ˈk^ˈēr] 四回、[ju^ˈk^ˈa:] 床、[ju^ˈgur] 豚の餌箱、
 [ju^ˈna: ˈgī] ユウナ: [ju^ˈt^ˈar] 四人、[ju ˈgo: ˈga ˈsa] 疥癬、
 /wī / [wī^ˈhē:] 桶、
 /wē / [bot ˈwē ˈhē] 坊主桶 (把手のない桶)
 /wa / [wa^ˈt^ˈa:] 腹、[wa^ˈk^ˈi:] 脇、[ni^ˈwa:] 庭、[ʃi^ˈmī: ˈna ˈwa] ノ繩、
 [ʃi^ˈwas] 師走、[bi^ˈwa:] 枇杷、[ʃi^ˈwa:] 鮫、
 [t^ˈʃa ˈdʒa:^ˈwan] 湯呑、[ka^ˈwa: ˈra] 瓦 (新語か)、
 [wa^ˈru:] たくさん、[wa^ˈra: ˈbi] 子供、[wa ˈha:^ˈsar] 若い、
 /wo / [wo ~ o] [t^ˈʃa^ˈwo: ˈk^ˈē] 茶請け、[^ˈk^ˈjao ˈro] ごめんください
 /wu / [ˈu^ˈgi:] さとうきび、[ˈut ˈt^ˈi] おととい、[ˈu^ˈnak] おんな、
 [ˈu^ˈt^ˈu:] 夫、[ˈu^ˈnar] 姉妹、[ˈu^ˈdʒi:] 叔父、[ˈu^ˈba:] 叔母、

['uik ɾ k'wa] 甥、

2. 3. 6. 舌尖摩擦音 /s/ /ʃ/

/s/ は舌尖摩擦音で、無声音である。/ʃ/ はその口蓋音化した子音である。/s/ は標準語のサ行の子音に対応してあらわれる。

標準語 諸鈍方言

/sa/ - /sa/ [sak ɾ ra] 桜、

/si/ - /ʃi/ [ʃi' ma:] 島、

/ʃ/ [ʰʔuʃ] 牛、[ʰmuʃ] 虫、

/su/ - /sī/ [sī' sī:] 煤、[sī' nī:] 脛、

/s/ [ga' ras] 烏、[ʃi' was] 師走

/se/ - /sī/ [ʔa' sī:] 汗、

/so/ - /su/ [su' dī:] 袖、[mi' su:] 味噌

/sī/ [ʰsī:] 酢、[ʰsī:] 巢、[sī' da:] 年上、[ga' ra: ʰsīp] ガラス蛇、

[sī' dʒi:] すじ、[ʔa' sīp] あせも、[sī' ga: ʰmīt] 唾、

[sīk ɾ ma] すきま、[sī' k'u: ɾ bu] もみ殻、[na' sīp] 茄子、

[dī' sīk] ススキ、[sī' hē:] 酒、[sī' t'a:] 砂糖、[sī' t'it] ソテツ、

[ʔa' sī:] 朝食、[ʔu' sī:] 臼、[ʰsīk] 犁、[ʰsī:] 鞘、[k'a' sī:] 総、

[ʰsīm] 隅、[sī' na:] 砂、[sī' k'a: ɾ ma] 早朝、[sī' t'u:] 外、

/sē/ [hwa: ɾ jasē] 葉野菜、[nī' sē:] 若者、

/sa/ [ʔi' k'jas ɾ sa] いくら、[ʔu' hu: ɾ sa] 大きい、[ʰʔin ɾ sa] 小さい、

[dun' sar] 月経、[sa' ru:] 猿、[k'y' sa:] 草、[sa' k'uʃ] しゃくし、

[ʰʔo: ɾ sa] あおさ、[sa' dʒi:] さじ、[ha' sam] はさみ、

[sa' bak] ときぐし、[sa' ba:] ぞうり、[k'a' sa:] 笠、[sa' k'u:] 谷、

[ʰsak] 先、[ʔa' sa: ɾ t'i] あさって、[san' duk] 夕方、

[ʔa' sa: ɾ ji ɾ hī] 朝焼け、[sa' ha: ɾ ʃima] 逆さま、

/so/ [ʰso:] 竿、[ʰnē: ɾ so] 糸、[ʰso: ɾ k'i ɾ bu ɾ nī] 肋骨、

/su/ [su' ba:] 唇、[ro: ʰsuk] ろうそく、[ʃa: ɾ suba] 下唇、

[ʔwa: ɾ suba] 下唇、[hu' su:] へそ、[k'y' su:] 大便、

- [bus' suk] 仏桑華、[mi' su:] 味噌、[su' ba:] 側、[su' k'u:] 底、
 / s / [ha' nus] サツマイモ、[ga' ras] カラス、[bus' suk] 仏桑華、
 [hi' k'jos] 挽き臼、[ʃi' was] 師走、[ʌ' nus' do] 盗人、
 / ʃi / [ʃi' rjam] 虱、[ʃi' wa:] しわ、[ʃi' njum] 死ぬ、[ʃi' bar] 小便、
 [ʃi' ma:] 鳥、[ʃi' ʃi:] 肉、[bu' ʃi:] 節、関節、[ʌ' ʃim' bje] カンパチ、
 [ʃi' t'ʃu: 'ruk] ひよめき、[ʃi' rjum] 脂身、[ʃi' rja: 'bē] 疥 (皮膚病)、
 [ʃi' bur] 冬瓜、[ʃi' ru:] 汁、[k' wa' ʃi:] 菓子、[k' i' ʃir] キセル、
 [mē: ʔʃi' t'ʃi] 額、[ha' ʃi:] おはし、[ʔi' k'ja: ʔʃi] どうして、
 [k' y' ʃi:] 櫛、[ʔa' ʃi:] 裾 (あし?)、[hi' ʃi:] 干瀬、
 [ʃi' mī: ʔna' wa] しめ縄、[ʌ' huʃ] 星、[ʃi' was] 師走、
 [hu' ru: 'ʃik] 風呂敷、[k' ē: ʔʃi' ma] 裏返し、
 / ʃe / [ʔʃen] 千、[ʌ' ʃe: ' hē] 咳、[ʌ' ʃen' su] 扇子、
 / ʃa / [ʔʃa:] 舌、下、[ʃa: ʔsuba] 下唇、[bu' gin' ʃa] 金持ち、
 [ba' ʃa:] 芭蕉、[ʌ' ʃa:] した (過去)、[mit ʔra' ʃa] 珍しい、
 [ʔu' t' u: ʔru' ʃa] 恐ろしい、[gu' ʃan] 杖、[ʌ' ʔju: ' ʃa] 唾、
 [ʌ' k' o: ' ʃa] 山芋、
 / ʃo / [ʃo' ji:] 醤油、[k' y' ʃo:] 胡椒、[ʃo: ʔgwad' dik] 一月、
 / ʃu / [ʌ' huʃ' ʃu] 祖父、[ma' ʃu:] 塩、[ʌ' ʃum] [ʌ' ʃur] する、
 [ʃuk ʔt' ur] みぞおち、[ʔu' ʃu:] 海水、[ha' na: ' ʃum] 話す、
 [k' ur ʔʃum] 殺す、
 / ʃ / [ʌ' ʔuʃ] 牛、[k' i' ʌ' buʃ] 煙、[ʌ' ʔiʃ] 石、[ʌ' ʔuʃ' rjo] 後ろ、
 [t' i' ʌ' buʃ] 膝、[ha' daʃ] 裸足、[ʌ' k' uʃ] 腰、[ʌ' baʃ] くわすいも、
 [ʔiʃ' gjak] 石垣、[ʌ' duʃ] 友、[ʌ' mjaʃ' k' i] 薪、[ʌ' miʃ' gi] シャもじ、
 [sa' k' uʃ] シャくし、[ʔaʃ ʔdʒa' ha] 下駄、[ʔa' buʃ] 畦、
 [ʌ' haʃ] 橋、[mu' k' aʃ] 昔、[ʌ' niʃ] 西、[hi' gjaʃ] 東、

2. 3. 7. 鼻音 / n // m /

/ n / は舌先の鼻音で、/ m / は両唇の鼻音である。いずれも有声音である。

2. 3. 7. 1. 前舌鼻音 / n // nj /

諸鈍方言の / n / は標準語のナ行の子音 / n / に対応してあらわれる。

標準語 諸鈍方言

/na/ - /na/ [na^hha:] 中、[na^hnat] 七つ

/ni/ - /ni/ [ni:] 荷、[ni^hdzu:] 二十

/n/ [ʔdīn] 銭、[ʔgan] 蟹、

/nu/ - /nu/ [ʔnus^hdo] 盗人、[ʔnuʃ] 主

/n/ [ʔʔin] 犬、

/ne/ - /nī/ [k^ha^hnī:] 金、[hu^hnī:] 骨、

/no/ - /nu/ [-nu] 格助詞 (標準語「の」に対応)

/no/ [ʔno:] 野、[t^hi^hno:] つの、

閉音節の末尾にくる / n / は上記に示したように標準語の「に」「ぬ」に対応するだけでなく、「ん」に対応してもあらわれる。

*ni > n [ʔdīn] 銭、[ʔgan] 蟹、

*nu > n [ʔʔin] 犬、[ʔk^hin] 着物 (「衣」に対応)

*N > n [ʔbun] 盆、[hy^ht^hon] 布団、[ʔt^hin] 空、[ʔbin^ht^ha] 頬、
[ʔk^hin^hdʒo] 近所、

また、標準語の「ノ (no)」に対応して音節をとじる / n / があらわれることがある。

[ʔnaŋ^hk^ha] 七日、[k^hu^hhoŋ^hk^ha] 九日、

音節をとじる / n / に前舌音 (t^h, t^h, d, t^h, t^h, dʒ など) が後続するとき
は [n] であらわれ、奥舌音 (k^h, k^h, g) が後続するときは [ŋ] であらわれ
る。語末にくるときは / n / もしくは、/ N / であらわれる。

[n] [ʔhin^hdʒa] 山羊、[ʔk^hin^hdʒo] 近所、

[ʔbin^ht^ha] 頬、

[ʔhan^hni] 祖母、

[t^hin^hdar] かたつむり

[ŋ] [ʔnaŋ^hk^ha] 七日、[k^hu^hhoŋ^hk^ha] 九日

{^hjiŋ^ɾga} 男、{^hdin^ɾgi} デイゴ

{n ~ N} {^hʔaŋ} 蟻、{^hk'in} 蹴爪、

両唇音 (p, b, m) が後続するときには [m] があらわれる。この [m] は /m/ が音節をとじる位置にあらわれたものであり、標準語のように、はねる音のバリエントとしてはみとめられない。

(2. 3. 7. 2. /m/ の項参照)

- /ni/ {ʔa^hni:} 姉、{ni^ɥdim} 鼠、{^hni:} 根、{hu^ɥni:} 船、
{^hnik} いびき、{si^ɥni:} すね、{ni^hbu: ɾ t'u} ねぶと、
{ha^hni:} 羽、{^hnik ɾ k'a} ネギの一種、{t'a^ɥni:} 種、
{ni^ɥgur} 根、{ni^ɥsə:} 若い男、{niŋ^ɾguro} 妾、恋人、
{^hjo: ɾ ni} 夜、{ni: ɥ dzin} ニンジン、
- /nə/ {^hnə: ɾ so} 糸、{^hnə} 地震、{^ɥnəm} 無い、{^hnən ɾ t'a} 無かった、
{nə: ɥ gjum} びっこを引く、
- /na/ {na^ɥda:} 涙、{ha^hna:} 花、{^hna:} 名前、{^hnam} あなた、
{na^ɥbi:} 鍋、{wu^ɥnak} 女、{wu^hnar} をなり、{na^ɥsip} ナス、
{na^hbi: ɾ ra} ヘチマ、{na^ɥba:} キノコ、{ju^hna: ɾ gi} ユウナ、
{ma^hna: ɾ t'ʃa} まな板、{t'u^hnar} 隣、{k'a^ɥna:} 匏、
{t'i^ɥna:} 網、{^hnat} 夏、{ʃi ɾ mi: ɾ na ɾ wa} しめ縄、
- /no/ {^ɥno:} 縄、{^hnok} 虹、{^ht'ʃo: ɾ no} 手斧、{t'i^hno: ɾ gi} てぬぐい、
{ʔi^ɥno:} 内海、{no ɾ ho: ɥ gir} のこぎり、{^hgin ɾ no} 金槌、
{k'u ɾ ho: ɥ not} 九つ、
- /nu/ {ha^ɥnus} 甘薯、{^hnu:} 何、{nu^ɥbi:} 喉、{^hnuk} 横糸、
{nu^hno:} 布、
- /n/ {^hwan} 私、{k'un ɾ nja ɾ t'o} ゴキブリ、{^hjiŋ^ɾga} 男、
{ʔin^ɥsam} みじかい、{^hhan ɾ ni} 祖母、{k'u ɾ hoŋ^ɥk'ər} 九回、
{k'i^ɥda: ɥ mun} 獣、
- /ni/ {ni^hgi:} 刺、{ʔi^ɥni:} 稲、{^hniʃ} 西、{ni^ɾgja: ɾ ʔu^ɾri} にかうり、
{^hnin ɾ dʒo} 仲間、{^hhan ɾ ni} 祖母、
- /nje/ 欠

/nja/ [ʃiˈnjam] 死なない、[miˈnja:] 貝、[kˈun˧nja˧tˈo] ゴキブリ、
[ˈɲjar] 少し

/njo/ [miˈnjo:] 蓑、[ʔaˈnjo:] 兄、

/nju/ [ʃiˈnjum] 死ぬ、[kˈiˈnju:] きのう、

2. 3. 7. 2. 両唇鼻音 / m // mj /

標準語と諸鈍方言の両唇の鼻音 m の対応は以下のようである。

標準語 諸鈍方言

/ma/ - /ma/ [ˈmak] 牧、[ʃiˈma:] 島

/mi/ - /mi/ [ˈmi:] 身、[miˈmi:] 耳、

/m/ [ˈmum] 初、[kˈaˈgam] 鏡、

/mu/ - /mu/ [ˈmuʃ] 虫、[muˈni:] 胸、

/me/ - /mi/ [ˈmi:] 目、[tˈiˈmi:] 爪、

/mo/ - /mu/ [muˈmo:] 腿、[ˈmum] 初

/mo/ [kˈiˈmo:] 肝、[kˈuˈmo:] 雲

音節をとじる /m/ は標準語のミに対応してあらわれる(注20)。

[miˈnam] 南、[ˈsim] 隅、[ˈk'am] 紙、

[ʃiˈrjam] しらみ、[niˈdim] ねずみ、

[kˈuˈmiˈk'am] こめかみ、[ʃiˈrjum] 脂身(しろみ)、

[ʔiˈdzum] 泉、

この音節をとじる /m/ は、両唇音に先行するときにはあらわれるだけでなく、前舌音 (d, dz, n, j)、奥舌音 (k', g) などに先行するときにもあらわれる。

[k'amˈdaʃ] かんざし、[ˈnam˧dʒa] 銀、[k'amˈnar] かみなり、

[mim˧kˈutʃ˧rja] 蟬、[niˈdim˧ja˧ma] 鼠取り

その他の音節をとじる /m/ の例

[gaˈdzam] 蚊、[ˈʃim˧bje] カンパチ、[ʔaˈdim] 杵、[guˈʃam] 杖、

[ˈjam˧më] 庭、[huˈhum] 埃、[ˈʔam˧ma] 母、[ham˧më] 飯、

- /mī / [k'u'mi:] 米、[ʰmit] 水、[ʔa'mi:] 雨、[ʔi'mi:] 夢、
 [mitʔraʃa] 珍しい、[ʰmiŋʃk'o] まぶた、[ʰmiŋʃk'i] まつげ、
 [ʰmipʃpo] 盲、[k'uʃmi:ʋk'am] こめかみ、[siʃga:ʋmit] 唾、
 [miʋmit] ミミズ、[mi:ʋmun] 牝、[k'aʋmi:] 亀、
 [ʰmikʃk'wa] 姪、[juʋmi:] 嫁、[k'aʋmi:] 甕、
 [ʃiʃmi:ʔnaʃwa] 縄、[ʋmi:] 孔、
- /mē / [ʋmē:] 前、[mē:ʔʃiʃt'ʃi] ひたい、[mē:ʔraʃbi] 若い娘、
 [ʰjakʃmē] 兄、[ʰjamʃmē] 庭、
- /ma / [ʰmatʃgi] 松、[ʰʔamʃma] 母、[ʔuʋma:] 馬、
 [dʒiʰma:ʃmi] 落花生、[k'aʋmatʃ] 頭、[haʃga:ʃma] 羽釜、
 [ʔuʋmat] 火、[maʃʃu:] 塩、[k'aʋma:] 鎌、[ʃiʋma:] 鳥、
 [ʔaʃma:ʔsam] 甘い、[k'uʰma:] ここ、[naʋma:] 今、
 [maʃjo:] 眉、[maʃri:] 尻、[maʃra:] 陰茎、
 [t'uʃma:ʔt'o] トマト、[guʋma:] ゴマ、[gatʋmar] ガジマル、
 [marʔguʃho] おむつ、[maʋga:] 孫、[hatʃʋmak] 鉢巻、
 [maʰna:ʃt'ʃa] まな板、[sikʔma] 隙間、[k'ē:ʔʃiʃma] 裏返し、
 [maʰna:ʃk'a] 便所、[k'aʰma:] かまど、[maʃhar] 碗、
 [ʰmakʃra] 枕、[haʋma:] 浜、
- /mo / [jaʋmor] やもり、[ʰmo:] 藻、[k'o:ʋmor] コウモリ、
 [mokʔk'a] パパイヤ、[k'uʋmor] 窪み、[ʃiʃmo:ʋt'ik] 霜月、
- /mu / [muʋho:] 婿、[muŋʃgutʃ] 門、[ʰmut] 六つ、[k'iʃda:ʋmun] 獣、
 [muʋdʒi:] 田芋、[ʔuʋmu:] 里芋、[k'uʰmuk] 小麦、
 [muʋgi:] 麦、[muʰrē:] こじき、[muʰje:] 模合、
 [muʋk'ē:] 向かい、[ʔuʰmu:ʃt'i] 表、[muʋra:] 村、
 [muʋk'aʃ] 昔、[muiʔk'a] 六日、
- /mi / [miʋdʒo:] 溝、[ʰmitʃ] 道、[miʋsu:] 味噌、[miʋt'ʃu:] 土、
 [nuʋmi:] 蚕、[ʔuʋmi:] 海、[ʰmik] 右、[ʰmit] 三つ、
 [ʔuʋmi:] 膿、[ʰmiʃʃgi] シャもじ、[ʰmiŋʃgjo] 人形、
 [ʰmiʃʃja] 店、[ʔaʋmi:] 網、[guʋmi:] ゴミ、

/mje/ 欠

/mja/ [ʲmjak] 脈、[ʲmja:] 猫、[ʰmjaʃʽkʲi] 薪、

/mjo/ [nuʽmjo:ʲram] 飲んでいない、[ʲmjotʃ] 名字、

/mju/ [nuʲmjum] 飲む、[kʰaʲmjum] 食べる、

2.3.8. 流音 / r /

/r/ は有声音で、流音（弾き音）である。諸鈍方言の [r] は標準語のばあいとはほぼおなじように舌先と歯ぐきのつきだした部分で調音されるが、音節をとじる [r] は側面音 [l] のバリエントをもつことがある。このとき舌先が歯ぐきのつきだした部分よりもうしろにずれて、舌先を硬口蓋につけたままで発音されるようである。/r/ は標準語のラ行の子音に対応してあらわれる。諸鈍方言の /r/ も標準語の和語のように語頭には立ちにくいフォネムである。

標準語 諸鈍方言

/ra/ - /ra/ [saʲra:] 皿、

/ri/ - /ri/ [ʔuʲri:] 胡瓜（「瓜」に対応）

/r/ [ʰtʰur] 鳥、[hiʲdʒar] 左、

/ru/ - /ru/ [saʲru:] 猿、[tʰaʲru:] 樽

/r/ [ʰsar] 申、[kʰjʲir] 煙管、

/re/ - /rĩ/ 欠

/ro/ - /ru/ [ʲru:] 櫓、[duʲru:] 泥、

/ro/ [kʰuʰho:ʽro] 心、[roʰkʰu:ʽdʒu] 六十

上にしめしたように音節をとじる /r/ は標準語のり、ルに対応してあらわれるが、つぎの語例のように標準語のレに対応してあらわれることがある。

[ʰdir] どれ、[ʰʔar] あれ、[ʰkʰur] これ、[ʰʔur] それ、

[ʰtʰar] だれ、[juʰdar] よだれ、

音節をとじる /k/ / /p/ / /t/ / /tʃ/ が後続する有声子音の影響（逆行同化）によって [g] [b] [d] [dʒ] に変化する（たとえば [sagʽra] 桜、[ʰʔabʽra] 油など）ことについては先にのべたが、それと逆に音節をとじる

／k／／p／／t／／tʃ／の影響によって後続する音節の／r／が無声化、あるいは半有声化することがまれにある。

[sak ʔra] 桜、[ʔap ʔra] 油、[ʔgutʃ ʔra] 鯨、

その他の語例

／ri／ [ʔi ʔri ʔsak] 移住者、

／rē／ [mu ʔrē:] こじき、[si ʔda: ʔrē] すだれ、[ju ʔmak ʔrē] 夕暮、
[ji: ʔgu ʔrē] 酔っぱらい、

／ra／ [ʔmak ʔra] 枕、[ma ʔra:] 陰茎、[mē: ʔra ʔbi] 若い娘、
[ga ʔras] カラス、[na ʔbi: ʔra] ヘチマ、[sak ʔra] 桜、
[mīt ʔra ʔa] 珍しい、[ʔʔab ʔra] 油、[ʔk ʔub ʔra] ふくらはぎ、
[ʔt ʔo: ʔra] 俵、[ha ʔbi: ʔra] 蝶々、[k ʔa ʔra:] 芋の葉、
[k ʔu ʔda: ʔra] 小皿、[ʔu ʔra: ʔt ʔa] 壁、[t ʔi ʔra:] 顔、
[hun ʔda ʔra] 大皿、[k ʔa ʔwa: ʔra] 瓦、[k ʔu ʔra:] 倉、
[na ʔha: ʔra] 半分、[hwī ʔra:] 籠、[ʔu ʔra:] うら、

／ro／ [ro: ʔsuk] ろうそく、[rop ʔpjak] 六百、[ro ʔk ʔu: ʔdʒu] 六十、
[niŋ ʔguro] 妾、[k ʔu ʔho: ʔro] 心、

／ru／ [ʔrup ʔrup] 犬の鳴き声、[ʔhik ʔru] 垢、[ʃi ʔt ʔu: ʔruk] ひよめき、
[ʃi ʔru:] 汁、[t ʔa ʔru:] 桶 (樽か)、[ruk ʔnin] 六人、
[hu ʔru: ʔʃik] 風呂敷、[ʔhuk ʔru] 袋、[ʔu ʔt ʔu: ʔru ʔa] 恐ろしい、
[ʔu ʔru:] 珊瑚の砕けた小石、[ʔu ʔru:] 喉

／ri／ [ma ʔri:] 尻、[ʔʔip ʔri] ものもらい、[ni ʔgja: ʔʔu ʔri] にがうり、
[t ʔa ʔri:] 陰囊、[ʔi ʔri:] 錐、

／rja／ [ʃi ʔrjam] 虱、[ʔt ʔip ʔrja] 草、[ʔt ʔitʃ ʔrja] 網の一種、
[hi ʔrja:] 南京虫、[ʔgutʃ ʔrja] 鯨、[ʔk ʔib ʔrja] 葱
[ʃi ʔrja: ʔbē] 疥 (皮膚病)、[ʔik ʔrja ʔsam] 少ない、

／rjo／ [ʔʔuʃ ʔrjo] 後ろ、[nap ʔrjo ʔsam] すべっこい、[ʔji: ʔrjo] ひも、

／rju／ [ʃi ʔrjum] 脂身、[dʒi ʔrju:] 炉 (囲炉裏)、[ji ʔrjum] 坐る、
[hu ʔrjum] 降る、[ji ʔhē: ʔrjum] 焼ける、[k ʔi ʔrjum] 切る、
[hi ʔrju: ʔsam] 広い

/r/ [ja'mor] やもり、[k'o:'mor] コウモリ、[ma'har] 碗、
 [mar ʔgu'ho] おむつ、[gat'mar] ガジマル、[ɥnjar] 少し、
 [t'ir ʔgjo] 井戸、[t'in'dar] 蝸牛、[ʔsur] する、[ni'gur] 根、
 [ʃi'bur] 冬瓜、[k'i'ʃir] キセル、[ʃi'bar] 小便、
 [hi'dzur] 稻光、[ʔt'ʃur] 一人、[gat'mar] ガジマル、
 [u'dur] 踊り、[t'u'nar] 隣、[ju'dar] よだれ、[k'ir ʔhwë] 霧、
 [ʔt'ar] 二人、[ju't'ar] 四人、[k'u'mor] 窪み・穴、
 [k'am'nar] 雷、[t'a'k'ër] 二回、[mi'k'ër] 三回、
 [ju'k'ër] 四回、[na'na:'k'ër] 七回、[mu'k'ër] 六回、
 [k'ɥ'hoŋ'k'ër] 九回、[ja'k'ër] 八回、[t'u: ʔk'ër] 十回、
 [ʔʔir'k'i] ふけ、[ma'har] 椀、[no'ho:'gir] のこぎり、
 [ɥbur] 鞭、

音節をとじる位置にくる/r/は、後続する子音フォネームの影響をうけて
 同化（逆行同化）して、後続の子音と同じ音になることがある。

t'un ʔnju 鳥が (< ʔt'ur 鳥)

ʃi' bat ʔt'it'o 膀胱 (< ʃi'bar 小便)

注

- (1) 諸鈍方言のばあい、ひびき音の喉頭化／非喉頭化の対立は半母音にかぎられているが、北奄美大島方言には鼻音にもみられる。
〔2ma〕馬、〔2ni〕稲（龍郷町円）
また、沖縄北部の伊江島の方言には流音にも喉頭化／非喉頭化の対立がみられる。
〔2ra:〕あなた、〔2ri:〕あなたたち（伊江村川平）
詳しくは生塩睦子1993を参照。
- (2) 沖縄本島北部の今帰仁村与那嶺方言にも喉頭／非喉頭の対立があるが、それは原則的に語頭においてのみみられるもので、語中においては、明確な複合語を除いて、喉頭化した子音のみがあらわれ、その対立が解消されるようである。仲宗根政善著『沖縄今帰仁方言辞典』（1983年角川書店）参照。
- (3) *ki *ku *ʔi *tsu の子音 k, tʃ が喉頭化するのは、後続する母音 *i *u の音響管としての効率の悪さから、当該方言で全体として呼気流量が減少したとき、すくない呼気で音を響かせるために、喉頭が緊張して閉鎖され、呼気の流失をおさえる制御作用がおこなわれたのではないと思われる。
- (4) haʔt'o: (鳩)、k'aʔt'a: (肩) のように先行する母音が無声化していなくても、第二音節目の子音が喉頭化することがある。これは、広母音 a と無声子音、特に摩擦音 h や s、奥舌軟口蓋の破裂音 k が結合する語頭の音節においてより多くの呼気が消費される傾向があり、③のばあいに似た条件が形成されるために、第二音節目の破裂音が喉頭化するのであろう。
- (5) [s:s] [t:tʃ] をのぞく子音フォネームの口蓋音化／非口蓋音化の対立も中和される。
`juk 雪 ju`k'im 雪も
`hwak 箱 hwa`k'um 箱も
`k'uk 釘 k'u`gim 釘も
- (6) sag ʔra の g は *ku に対応するから、`hig ʔ ru, `ʔab ʔ ra の有声音 g, b がふるい形を保存しているのではなく、後続の有声子音（流音）の影響で有声音化したものとみるべきである。
- (7) 諸鈍方言に無声化した母音が存在しないわけではない。母音の無声化については前号14頁参照。
- (8) 筆者が1993年9月に調査した鹿児島県揖宿郡穎娃町の方言も、閉音節構造の単語を多く有する方言であるが、穎娃方言の閉音節をつくる子音のうち、破裂音は喉頭化する傾向が強く、[k'] [t'] であられる。これらの音節をとじる破裂音は外破がすくなく、気音があまり聞かれない。諸鈍方言で区別される音節をとじる [tʃ] [ts] [t] [p] が穎娃方言ではすべて [t'] に統一され、音節をとじる [k'] との区別をのこすのみと

なっている。以上のほかに音節をとじる子音には摩擦音 [s] [ʃ]、鼻音 [ŋ] がある。諸鈍方言の音節をとじる /r/ に対応しては規則的に [i] があらわれる。

['kut'] 口、['it'] 指、['mjak'] 脈、['uʃ] 牛、['us] 白、
[jan] 山羊、['toi] 鳥

(9) 前舌狭母音 i と結合する口蓋音化した子音フォネームも、他の口蓋音化した子音フォネームと同様に /bj/ と表記すべきであろうが、これまでの慣例にしたがって /bi/ と表記する。

(10) 「拗音節、たとえば、kja という音節を 3 個のフォネームの連続とみなすことは困難であろう。それは、調音的にみたばあい、拗音節における口蓋音化という要素は、子音フォネームの他の要素と同時的であるからである。口蓋音化は子音の持続部のはじめにおいて完成しているし、母音の持続部へむかっていく子音のでわたりの部分は同時に口蓋音化が解消されていく過程であるからである。拗音節の発音において、口蓋音化している子音の持続部から母音の持続部へのわたりの運動は規範的な発音にあっても誇張された発音にあっても直線的であって、口蓋音化のための調音的なみねが子音の持続部よりもおくれておこることはない。このことは標準語、および拗音節をもっているほとんどの方言における拗音節の調音の特徴をなしている。」以上の上村幸雄1978の定義は、そのまま諸鈍方言の口蓋音化した子音フォネームを含む音節（拗音節）、唇音化した子音フォネームを含む音節（合拗音節）のばあいにもあてはまるものである。

(11) この拗音節と直音節の関係は子音の口蓋音化の有り無しだけでなく、母音の音色もことなっている。[gi:gi] [si:ʃi] [gë:ge] [së:ʃe] は子音の違いだけでなく、母音も前舌母音であるか、中舌母音であるかという違いも含まれている。他のばあい、たとえば、標準語の [ga:gja] [sa:ʃa] でも子音が口蓋音化していることにともない、母音を発音するときの口の開き方に微妙なちがいを生じていることが上村幸雄1978に指摘されている。

(12) 奄美大島諸方言は、全体として古代八行子音の *p の摩擦音化が進行しているが、奄美大島北端の笠利町佐仁（さに）の方言は奄美大島諸方言のなかで *p を保存する唯一の方言で、まわりの方言と大きくことなり（その他の特徴にも違いがみられる）、「言語の島」となっている。（用例は『琉球列島諸方言の基礎語彙の言語地理学的研究』所収。笠利町佐仁の調査担当者・上村幸雄）

[p'a] 歯、[p'aʃ bira] 蝶、[p'u] 帆、
[p'uʃ ni] 船、[p'i] 尻、

また、佐仁では語頭の *k が h に変化している。

[xi] 木、[huɪ] 米、[huɪ:] 今日、[ho] 皮

(13) この単語のばあい子音の口蓋音化の程度は他の口蓋音化した子音フォネームと比較した

ばあい、口蓋音化の程度は顕著ではなく、口蓋音化しない子音フォネームにかなり近いが、母音は前舌半広母音 e である。前舌硬口蓋の子音 t', t', d, n が中舌母音 ɤ と結合したばあい、その母音の音色は i や e に似てくるが、両唇音 p, b, m, 奥舌軟口蓋音 k', k', g と中舌母音 i, e が結合したばあいは、その中舌性は顕著である。このことからかんがえると、[ʌpen] の p は口蓋音化した子音のグループに分類すべきものとおもわれる。[se, t'se, t'se, dʒe] を除く、他の子音と前舌狭母音 e と口蓋音化した子音フォネームとが結合してつくる音節（拗音節）のばあいも他の拗音節とくらべると、口蓋音化の程度は小さいようである。

(14) ʔap ʔpjum (遊ぶ) には ʔas ʔbjum というかわり語形がある。このかわり語形はていねいなゆっくりした発音のときにあらわれる。第一音節目の [ʔas] は *aso に遡るのではなく、閉音節化していることから *asu にさかのぼるものとおもわれる。他の多くの琉球諸方言の「遊ぶ」に対応する形についても同様である。

(15) 諸鈍方言の破擦音の破裂音化は、*tʃ, *dʒ のような口蓋音化した破擦音にはおこっておらず、*ts, *dz のような口蓋音化していない破擦音におこったようである。

上村幸雄1989によると *ts > t, *dz > d のような破擦音の破裂音化は呼気の弱まりによって生じるようである。

(16) 沖縄本島北方言、与論方言、沖永良部方言、喜界島方言などでは語頭の *k が h に変化するが、諸鈍方言（他の奄美大島の諸方言も含めて）では *k > h の変化は語中のみ見られる現象である。

	皮	米	木
和泊町国頭	ʔho:	huʔmi:	ʔhwi:
知名町久志検	ʔho:	huʔmi:	ʔhi:
与論町城	ʔho:	mai	ʔhi:
国頭村辺野喜	ʔha:	huʔmi	ʔhi:
大宜味村大宜味村	ʔha:	huʔmi	ʔhi:

(17) 首里方言をはじめとする沖縄中南部方言の多くは口蓋音化した奥舌軟口蓋の破裂音 *kj, *gj が破擦音化して tʃ, dʒ に変化しているが、諸鈍方言にはこの破擦音化がみられない。

{tʃu:} 今日、 {tʃo:de:} 兄弟、 {ʔitʃun} 行く

{nindʒo:} 人形、 {kudʒun} 漬ぐ（首里方言）

(18) 北琉球方言の下位方言のなかには、この喉頭破裂音が音声としては存在しても音韻論的な単位としてはみとめられない方言もある。しかし、かつては存在していたことが容易に推定できるものである。糸満市糸満を中心にする沖縄本島南部の西側の地域、久米島、座間味村阿嘉・慶留間、伊平屋島、伊是名島、沖縄本島北部の塩屋湾以北の地域、

久高島の方言などがそういう方言である。

①9奄美大島北方言（笠利町、龍郷町、名瀬市、住用村、大和村、宇検村）ではこの *k から変化した /h/ がさらに消失してしまう。

〔sə:] 酒、〔dɛ:] 竹、〔t'o:] 蛸、〔na:] 中、

〔ji:ri〕 あけり（男兄弟）、〔wī:] 桶、

②0首里方言をはじめとする沖縄本島中南部、沖縄本島北部の諸方言では第一音節目の mi, mu の母音が消失してはねる音が語頭にくることがあるが、諸鈍方言の mi, mu は第二音節目以降にくるばあいのみ音節をとじる /m/ になるようである。

首里 諸鈍

*mino	> 'nnu	mi'njo:	蓑
*midzo	> 'ndzu	mi'njo:	溝
*mune	> 'nni	mi'njo:	胸
*mukaji	> 'nkaʃi	mu^k'aʃ	昔

【参考文献】

- 上村幸雄1995「琉球語方言学から一般言語学へー日本列島の南と北の言語学:アイヌ語と琉球語ー」(『言語研究』第107号)
- 上村幸雄1995「音声研究と琉球方言学」(『沖縄言語研究センター資料No.119』)
- 上村幸雄1990『日本語の母音、子音、音節ー調音運動の実験音声学的研究ー』国立国語研究所報告100)
- 上村幸雄1978『X線映画資料による母音の発音の研究ーフォネーム研究序説ー』国立国語研究所報告60)
- 沖縄言語研究センター1986「琉球列島諸方言の基礎語彙の言語地理学的研究」(『沖縄言語研究センター資料No.86』)
- 沖縄言語研究センター1986「奄美諸島方言の基礎語彙の言語地理学的研究」
- 生塩睦子1994『伊江島のはなしことば』
- かりまたしげひさ1995「島々のことばー琉球方言概説」(『アジアの中の沖縄ー文化をたずねてー』)
- 狩俣繁久1995「鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム(上)」(『日本東洋文化論集』創刊号 琉球大学法文学部紀要)
- 国立国語研究所1963『沖縄語辞典』
- 服部四郎1951『音声学』
- ※参考文献は前号「鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム(上)」にあげたもの以外のものをここに記す。

唇音化した系列

唇音化も口蓋音化もしない系列

	ʔwī	ʔwē	ʔwa	ʔu	ʔo	ʔa	—	—
	wī	wē	wa	wu	wo	—	—	—
hwi	hwī	hwē	hwa	hu	ho	ha	hē	hī
	k'wī	k'wē	k'wa	k'u	k'o	k'a	k'ē	k'ī
	k'wī	k'wē	k'wa	k'u	k'o	k'a	k'ē	k'ī
	gwī	gwē	gwa	gu	go	ga	gē	gī
				t'u	t'o	t'a	t'ē	t'ī
				t'u	t'o	t'a	t'ē	t'ī
				du	dod	da	dē	dī
				su	so	sa	sē	sī
				nu	no	na	nē	nī
				ru	ro	ra	rē	rī
				pu	po	pa	pē	pī
				bu	bo	ba	bē	bī
				mu	mo	ma	mē	mī

口蓋音化した系列

ʔi	ʔje	ʔja	ʔjo	ʔju	}
ji	je	ja	jo	ju	
hi	(hje)	hja	hjo	hju	
k'i	(k'je)	k'ja	k'jo	k'ju	}
k'i	(k'je)	k'ja	k'jo	k'ju	
gi	(gje)	gja	gjo	gju	
t'ʃi	(t'ʃe)	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu	}
t'ʃi	(t'ʃe)	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu	
dʒi	(dʒe)	dʒa	dʒo	dʒu	
ʃi	(ʃe)	ʃa	ʃo	ʃu	}
ni	(nje)	nja	njo	nju	
ri	(rje)	rja	rjo	rju	
pi	(pje)	pja	pjo	pju	}
bi	(bje)	bja	bjo	bju	
mi	(mje)	mja	mjo	mju	